

鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔第2号被保険者調査〕

令和5年3月
鈴鹿亀山地区広域連合

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の方法	1
3	配布・回収数	1
4	報告書の見方(注意事項)	1
II	調査結果	2
1	ご本人のことについて	2
2	介護に関する考え方について	6
3	健康について	11
4	将来の介護や在宅医療について	16
5	認知症について	21
6	地域のたすけあいについて	28
7	介護や保健福祉に関する相談について	56

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、令和 6 年度から実施する「第 9 期介護保険事業計画」の策定作業の中で、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

- ①調査対象地域 鈴鹿亀山地区全域
- ②調査対象者 鈴鹿亀山地区にお住まいの 40～64 歳の介護保険の被保険者のうち 55 歳以上で介護保険の要支援・要介護認定を受けていない方
- ③調査期間 令和 4 年 12 月(調査基準日は令和 4 年 11 月 15 日)
- ④調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

3 配布・回収数

有効配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
1,000	473	47.3%	1	472	47.2%

4 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中の N 数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(グラフおよび表中)の比率は、その設問の回答者数(N 数)を分母として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出し、小数点以下第 1 位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数(N 数)を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が 100%を超えることがあります。
- ④ 令和元年度に実施した前回調査(第 8 期介護保険事業計画の策定にかかる調査)において同一の設問を行っている場合は、前回調査との比較を行っています。その際、前回調査については「第 8 期調査」と表示しています。
- ⑤ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑥ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答数の少ない属性についてのコメントは控えている場合があります。
- ⑦ 地区別クロス集計については、日常生活圏域である『鈴鹿第 1 』、『鈴鹿第 2 』、『鈴鹿第 3 』、『鈴鹿第 4 』、『鈴鹿第 5 』、『鈴鹿第 6 』、『鈴鹿第 7 』、『鈴鹿第 8 』、『亀山第 1 』、『亀山第 2 』の 10 区分での集計を行っています。

II 調査結果

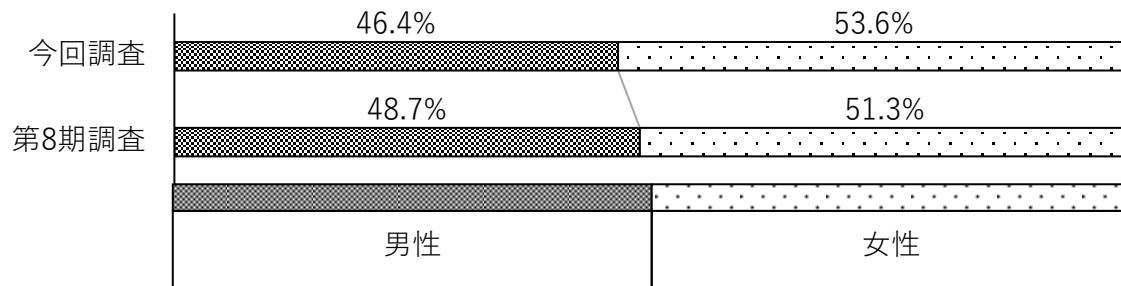
1 ご本人のことについて

問1 あなた（封筒のあて名の方。以下同じです。）の性別はどちらですか。（1つを選択）

【N=466、532(第8期調査)】

性別については、「男性」が46.4%、「女性」が53.6%と、「女性」が「男性」を7.2ポイント上回っています。

第8期調査と比較すると、「女性」が2.3ポイント上昇しています。

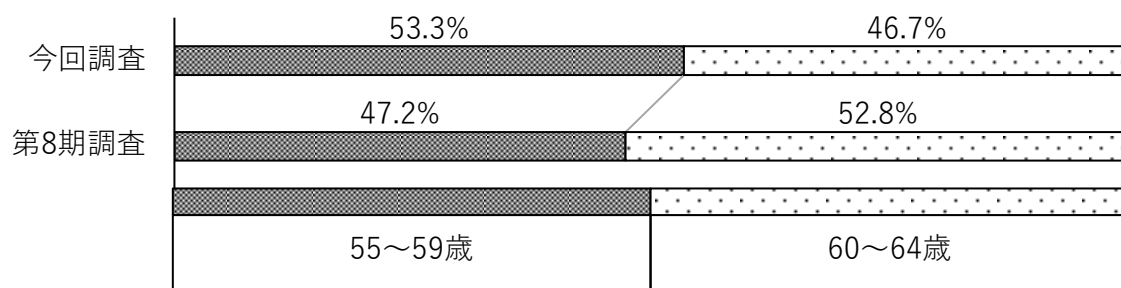


問2 令和4年11月15日現在のあなたの年齢をお答えください。（1つを選択）

【N=467、528(第8期調査)】

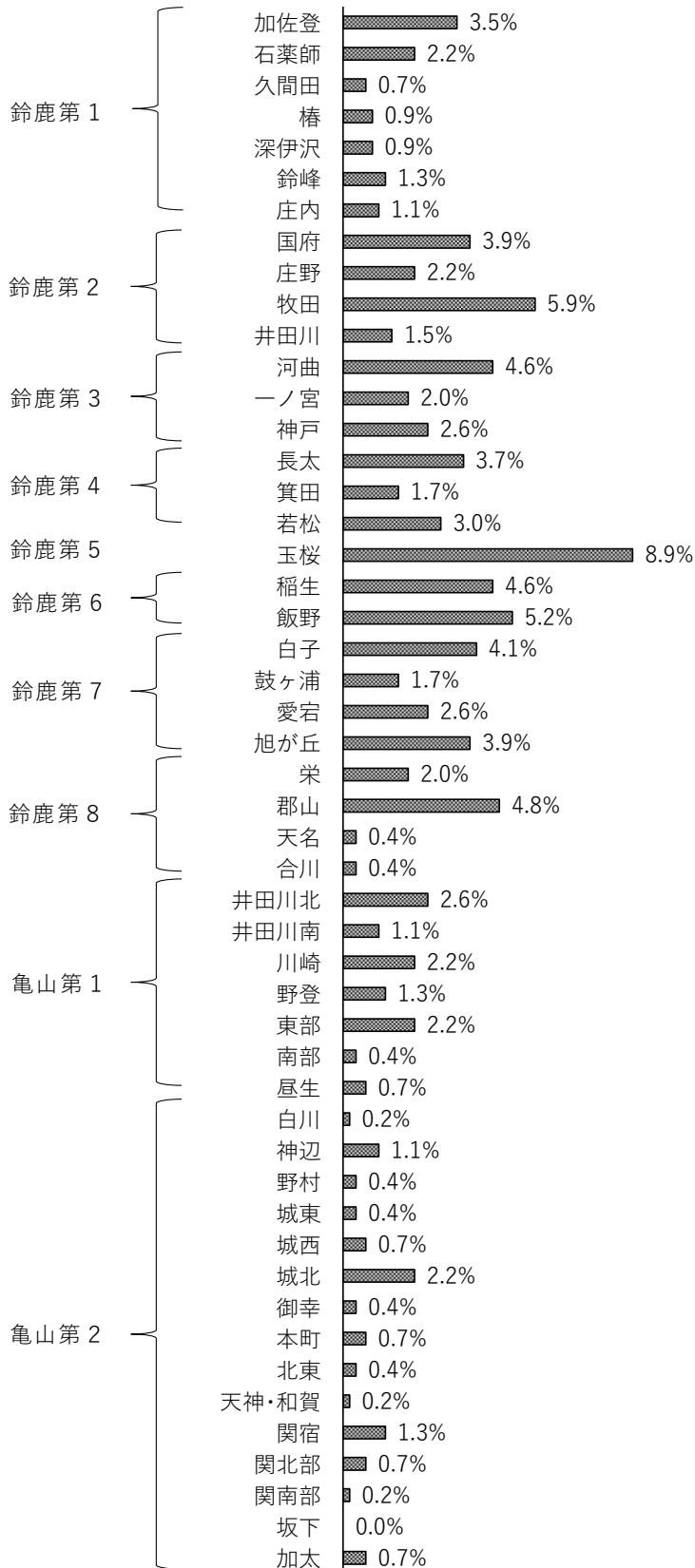
年齢については、「55～59歳」が53.3%、「60～64歳」が46.7%と、「55～59歳」が「60～64歳」を6.6ポイント上回っています。

第8期調査と比較すると、「55～59歳」が6.1ポイント上昇しています。



問3 あなたのお住まいの地区は、次のどちらですか。わからない場合は町名を書いてください。
(1つを選択) 【N=461】

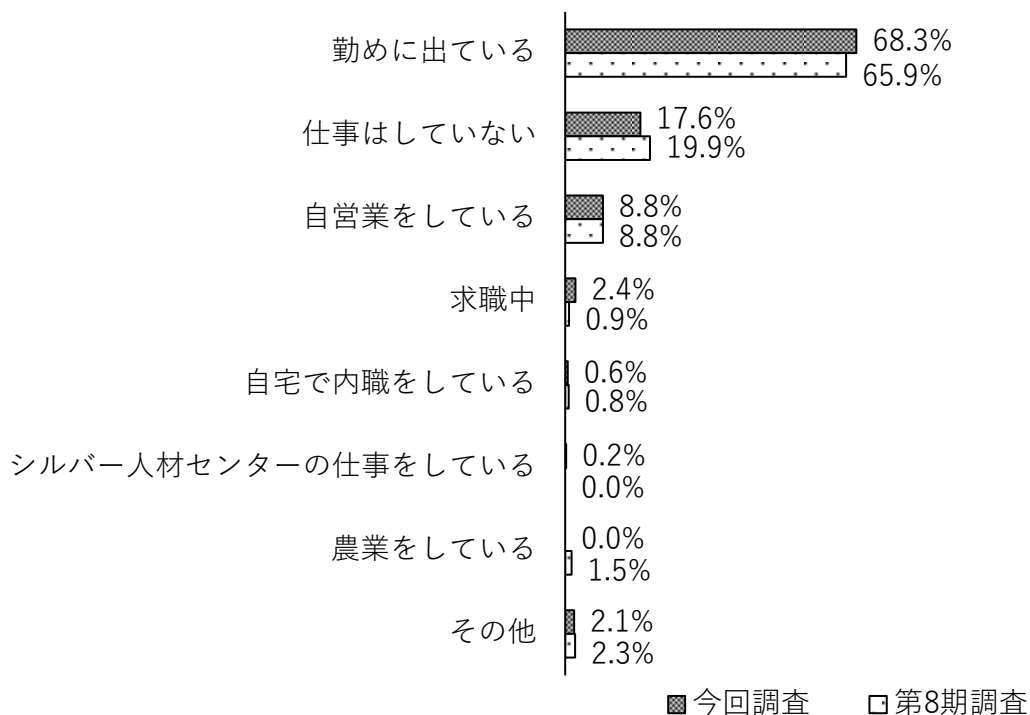
居住地区については、「玉桜」が8.9%と最も高く、次いで「牧田」(5.9%)、「飯野」(5.2%)と続いています。



問4 あなたは、現在、どんな仕事をされていますか。(1つを選択) 【N=467、533(第8期調査)】

仕事については、「勤めに出ている」が68.3%と最も高く、次いで「仕事はしていない」(17.6%)、「自営業をしている」(8.8%)と続いています。

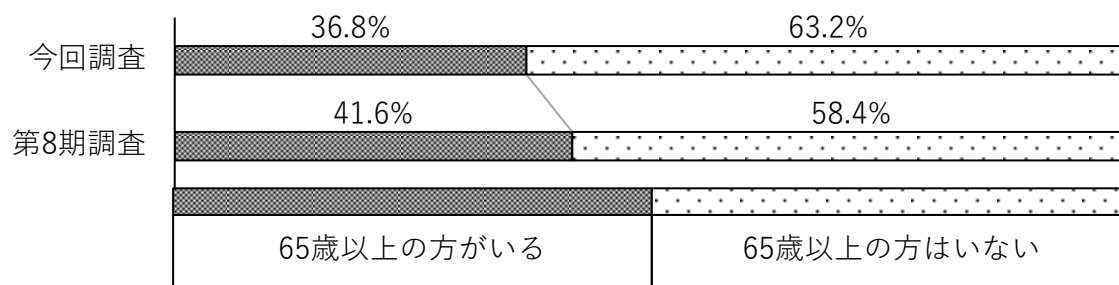
第8期調査と比較すると、「仕事はしていない」が2.3ポイント低下する一方、「勤めに出ている」は2.4ポイント上昇しています。



問5 あなたの世帯には65歳以上の方がお住まいですか。(1つを選択) 【N=465、531(第8期調査)】

世帯の状況については、「65歳以上の方はいない」は63.2%、「65歳以上の方がいる」は36.8%となっています。

第8期調査と比較すると、「65歳以上の方がいる」が4.8ポイント低下しています。

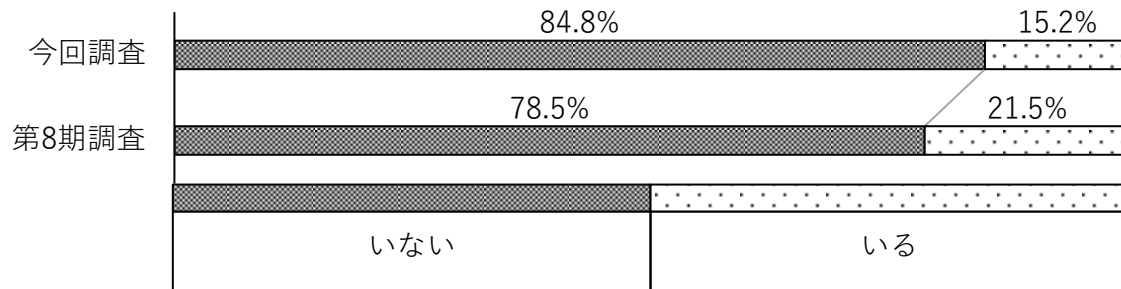


問6 現在、あなたのご家族の中に介護が必要な方はいらっしゃいますか。（1つを選択）

【N=466、530(第8期調査)】

家族の中に介護が必要な方がいるかどうかについては、「いない」が84.8%を占め、「いる」は15.2%となっています。

第8期調査と比較すると、「いる」が6.3ポイント低下しています。

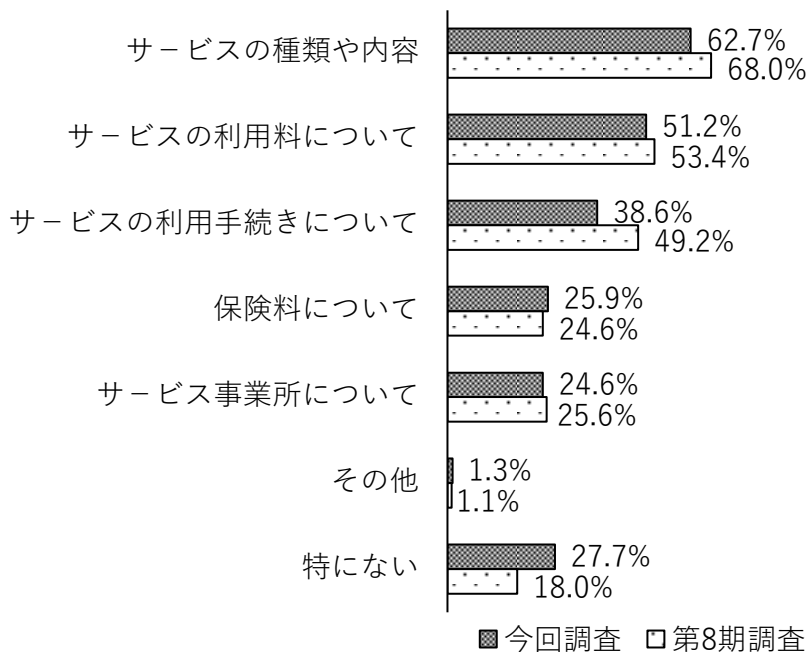


2 介護に関する考え方について

問7 介護保険について知りたい情報がありますか。(複数選択可) 【N=459、528(第8期調査)】

介護保険について知りたい情報については、「サービスの種類や内容」が62.7%と最も高く、次いで「サービスの利用料について」(51.2%)、「サービスの利用手続きについて」(38.6%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「サービスの利用手続きについて」は10.6ポイント、「サービスの種類や内容」は5.3ポイント、それぞれ低下しています。一方、「特にない」が9.7ポイント上昇しています。



要介護者の有無別クロス

要介護者の有無別にみると、要介護者の有無にかかわらず「サービスの種類や内容」が最も高くなっています。「サービスの利用手続きについて」は要介護者が『いない』人が40.2%と、『いる』人に比べ11.2ポイント高くなっています。

	合計	サービスの種類や内容	サービスの利用料	サービスの利用手続きについて	サービス事業所について	保険料について	その他	特にない
全体	457	62.8	51.2	38.5	24.5	26.0	1.3	27.6
いない	388	63.7	51.3	40.2	24.5	27.6	1.3	27.3
いる	69	58.0	50.7	29.0	24.6	17.4	1.4	29.0

問8 あなたは、ご家族が介護が必要な状態になった場合（現在介護をしている場合も含む）、どのようにしたいですか。（1つを選択）【N=461、527(第8期調査)】

今後、介護が必要な状態になった場合に希望する介護については、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が52.1%と最も高く、次いで「施設に入所・入居させたい」が31.7%、「わからない」が12.8%と続いています。

第8期調査と比較すると、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が3.1ポイント上昇する一方、「施設に入所・入居させたい」は1.9ポイント低下しています。

今回調査	2.0%	52.1%	31.7%	1.5%	12.8%
第8期調査	2.3%	49.0%	33.6%	2.1%	13.1%
	なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい	介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	施設へ入所・入居させたい	その他	わからない

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が最も高く、特に『鈴鹿第8』（65.7%）、『亀山第1』（62.5%）では高くなっています。一方、「施設に入所・入居させたい」は『鈴鹿第7』（47.3%）、『鈴鹿第1』（38.3%）で高くなっています。

	合計	できるだけ自宅で家族の介護をみたい	介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	施設へ入所・入居させたい	その他	わからない
全体	454	2.0	51.8	31.7	1.5	13.0
鈴鹿第1	47	2.1	46.8	38.3	2.1	10.6
鈴鹿第2	59	-	55.9	28.8	1.7	13.6
鈴鹿第3	42	4.8	50.0	33.3	4.8	7.1
鈴鹿第4	39	-	56.4	25.6	5.1	12.8
鈴鹿第5	41	2.4	43.9	26.8	2.4	24.4
鈴鹿第6	45	2.2	53.3	33.3	-	11.1
鈴鹿第7	55	1.8	41.8	47.3	-	9.1
鈴鹿第8	35	-	65.7	22.9	-	11.4
亀山第1	48	-	62.5	22.9	-	14.6
亀山第2	43	7.0	44.2	32.6	-	16.3

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」は男性より女性の割合が高くなっています。特に、『60～64歳女性』では57.1%と高くなっています。

		合計	したい で、なるべく 自宅で介護の をみる	介護サ ービスを ながら、自 宅を利 用する	施設へ入 所・入居 させたい	その他	わからない
男性	全体	213	1.9	50.2	31.0	2.8	14.1
	55～59歳	112	2.7	50.9	28.6	3.6	14.3
	60～64歳	101	1.0	49.5	33.7	2.0	13.9
女性	全体	246	2.0	53.7	32.5	0.4	11.4
	55～59歳	134	3.0	50.7	32.1	0.7	13.4
	60～64歳	112	0.9	57.1	33.0	-	8.9

要介護者の有無別クロス

要介護者の有無別にみると、要介護者が『いない』人では「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が53.7%、『いる』人では「施設へ入所・入居させたい」が51.4%と、それぞれ最も高くなっています。

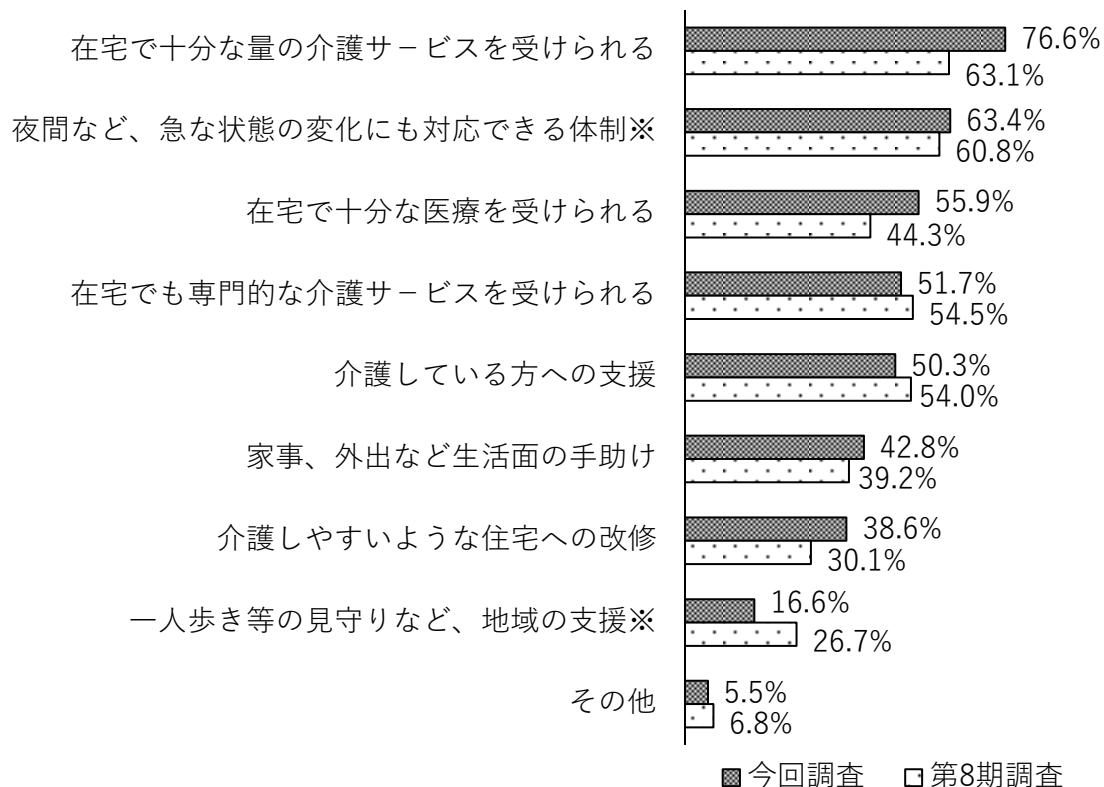
	合計	したい で、なるべく 自宅で介護の をみる	介護サ ービスを ながら、自 宅を利 用する	施設へ入 所・入居 させたい	その他	わからない
全体	459	2.0	52.1	31.8	1.5	12.6
いない	389	2.3	53.7	28.3	1.5	14.1
いる	70	-	42.9	51.4	1.4	4.3

問8で「施設に入所・入居させたい」と回答した方にお伺いします。

問8－② どのような条件が整えば、自宅で生活の続けることができますか。(複数選択可)【N=145、176(第8期調査)】

どのような条件が整えば、自宅で生活の続けることができると思うかについては、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が76.6%と最も高く、次いで「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」(63.4%)、「在宅で十分な医療を受けられる」(55.9%)、「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」(51.7%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が13.5ポイント、「在宅で十分な医療を受けられる」が11.6ポイント、それぞれ上昇しています。



※第8期調査選択肢：「夜間など、急な状態の変化にも 安心できる体制」「徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援」

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が最も高く、特に『55～59歳男性』『55～59歳女性』では80%を超えています。また、『55～59歳男性』では「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」が68.8%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。一方、「在宅で十分な医療を受けられる」「介護しやすいような住宅への改修」「介護している方への支援」などは男性より女性の割合が高くなっています。

		合計	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	一人歩き等の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活の手助け	その他
男性	全体	65	73.8	64.6	55.4	52.3	32.3	16.9	49.2	46.2	6.2
	55～59歳	32	81.3	71.9	68.8	50.0	34.4	18.8	46.9	43.8	-
	60～64歳	33	66.7	57.6	42.4	54.5	30.3	15.2	51.5	48.5	12.1
女性	全体	80	78.8	71.3	57.5	68.8	48.8	20.0	56.3	47.5	6.3
	55～59歳	43	86.0	76.7	58.1	69.8	46.5	23.3	55.8	48.8	7.0
	60～64歳	37	70.3	64.9	56.8	67.6	51.4	16.2	56.8	45.9	5.4

要介護者の有無別クロス

要介護者の有無別にみると、要介護者の有無にかかわらず「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が最も高くなっています。次いで、要介護者が『いない』人では「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」(65.1%)、「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」「介護している方への支援」(53.2%)が続いています。要介護者が『いる』人では「在宅で十分な医療を受けられる」(69.4%)、「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」(58.3%)が続いています。

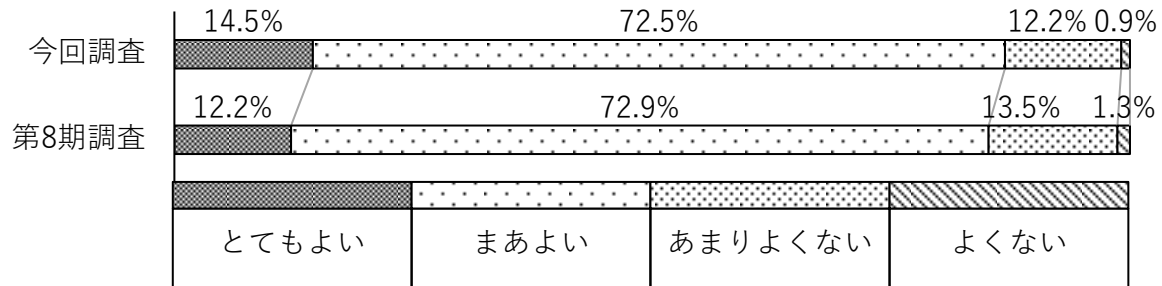
	合計	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	一人歩き等の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活の手助け	その他
全体	145	76.6	63.4	51.7	55.9	38.6	16.6	50.3	42.8	5.5
いない	109	78.0	65.1	53.2	51.4	42.2	18.3	53.2	42.2	5.5
いる	36	72.2	58.3	47.2	69.4	27.8	11.1	41.7	44.4	5.6

3 健康について

問9 ご自分の健康状態についてどう思われますか。(1つを選択)【N=469、532(第8期調査)】

健康状態については、「とてもよい」(14.5%)、「まあよい」(72.5%)と回答した、『健康だと思っている人』が87.0%に上っています。一方、「あまりよくない」(12.2%)、「よくない」(0.9%)と回答した、『健康ではないと思っている人』は13.1%となっています。

第8期調査と比較すると、『健康だと思っている人』が1.9ポイント上昇しています。

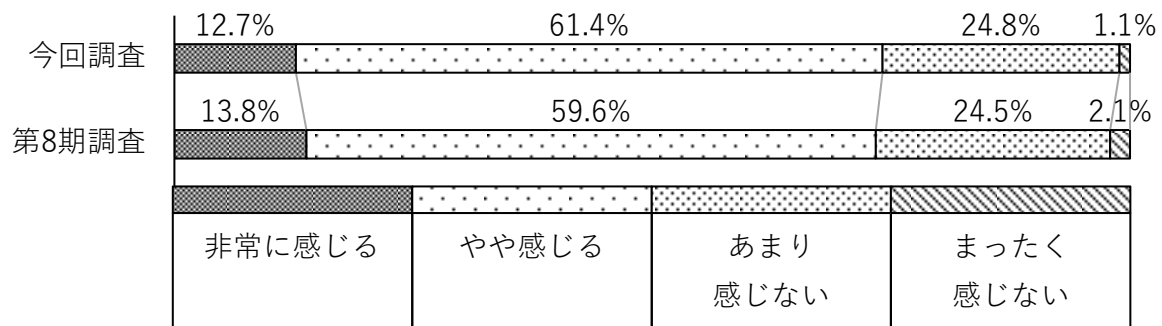


問10 あなたは、1年ほど前に比べて身体の衰えを感じますか。(1つを選択)

【N=471、530(第8期調査)】

1年ほど前に比べて身体の衰えを感じるかどうかについては、「非常に感じる」(12.7%)、「やや感じる」(61.4%)と回答した、『衰えを感じる人』が74.1%に上っています。一方、「あまり感じない」(24.8%)、「まったく感じない」(1.1%)と回答した、『衰えを感じない人』は25.9%となっています。

第8期調査と比較すると、「やや感じる」が1.8ポイント上昇しています。

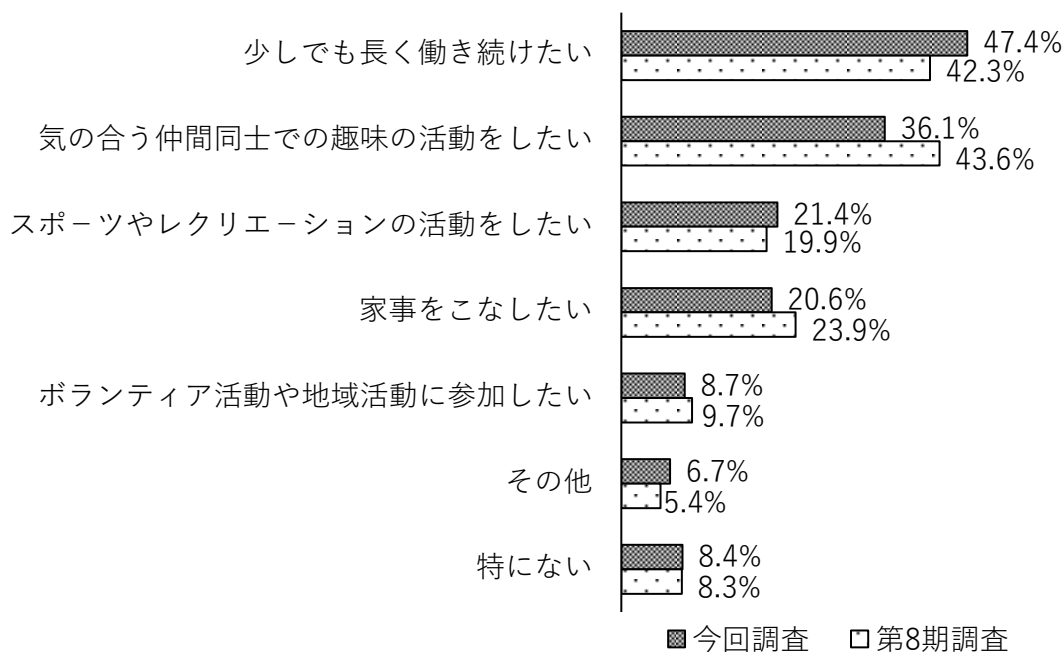


問11 あなたは、自分の健康や生きがいのために、どんなことをしたいと思いますか。

(2つまで選択可)【N=462、518(第8期調査)】

自分の健康や生きがいのためにしたいことについては、「少しでも長く働きたい」が47.4%で最も高く、次いで「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」が36.1%で続いています。一方、「特にない」は8.4%となっています。

第8期調査と比較すると、「少しでも長く働きたい」が5.1ポイント上昇する一方、「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」が7.5ポイント低下しています。

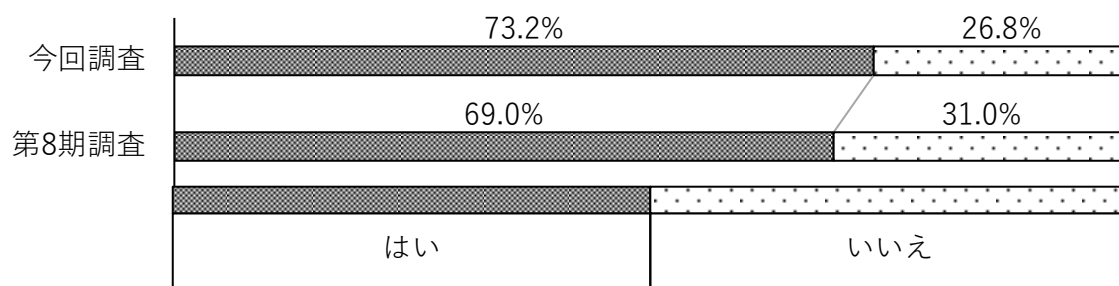


問12 あなたには、「かかりつけ医（主治医）」または、いつもかかっている医療機関がありますか。

(1つを選択)【N=471、532(第8期調査)】

「かかりつけ医」または、いつもかかっている医療機関がある人(「はい」と回答)は73.2%、ない人は26.8%となっています。

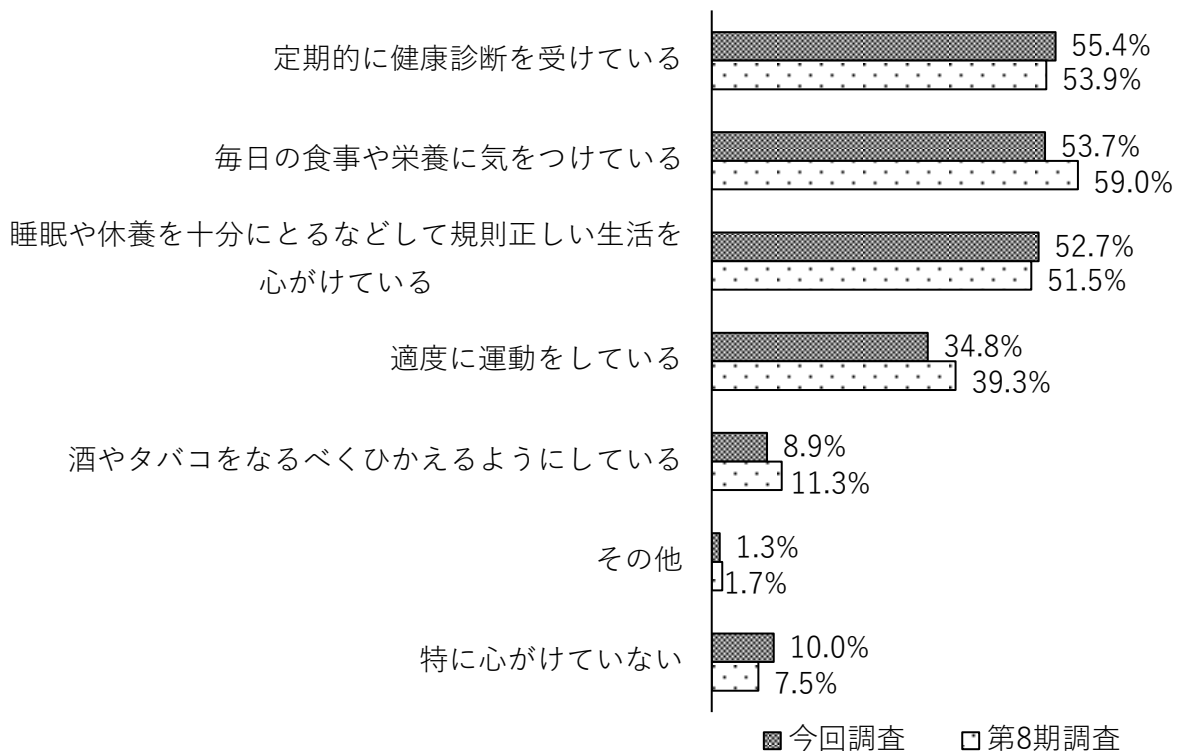
第8期調査と比較すると、「かかりつけ医」または、いつもかかっている医療機関がある人が4.2ポイント上昇しています。



問13 日頃、健康や介護予防(介護が必要な状態にならないようにすること)のためにどんなことを心がけていますか。(複数選択可) 【N=471、532(第8期調査)】

日頃、健康や介護予防のために心がけていることについては、「定期的に健康診断を受けている」が55.4%と最も高く、次いで「毎日の食事や栄養に気をつけている」(53.7%)、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」(52.7%)と続いています。一方、「特に心がけていない」は10.0%となっています。

第8期調査と比較すると、「特に心がけていない」が2.5ポイント、「定期的に健康診断を受けている」が1.5ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「毎日の食事や栄養に気をつけている」が5.3ポイント、「適度に運動をしている」が4.5ポイント、それぞれ低下しています。



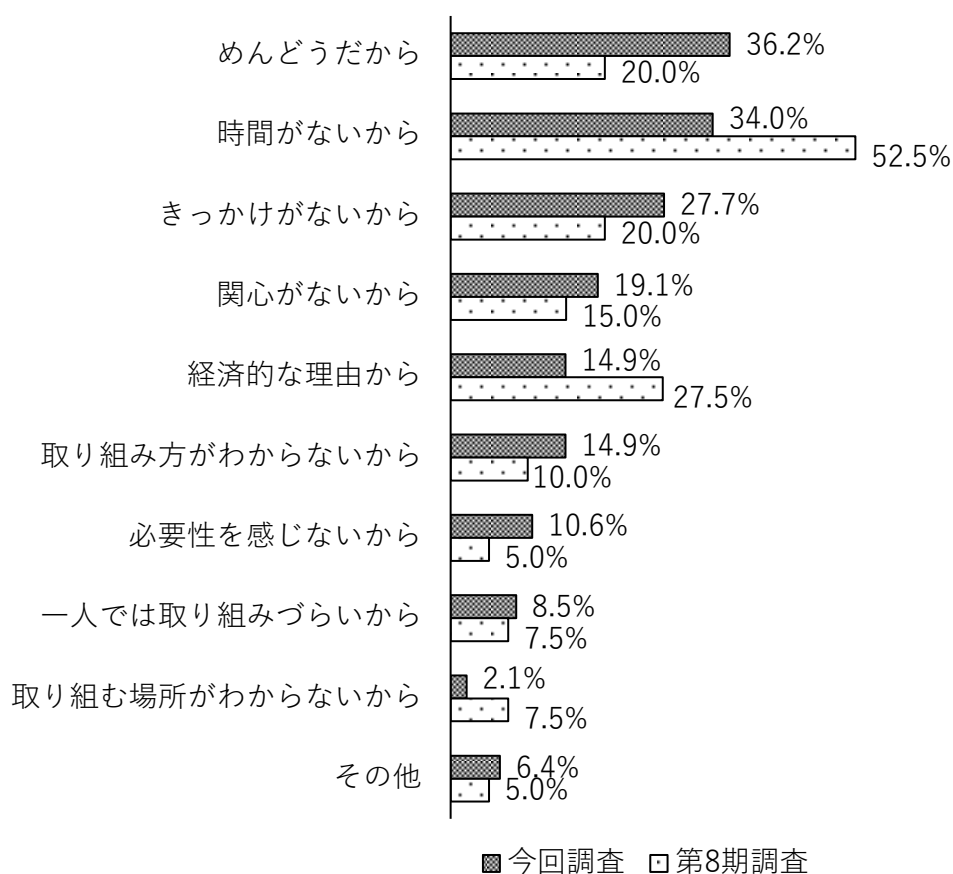
問13で「特に心がけていない」と回答した方にお伺いします。

問13—② 健康づくりや介護予防を心がけていない理由は何ですか。(複数選択可)

【N=47、40(第8期調査)】

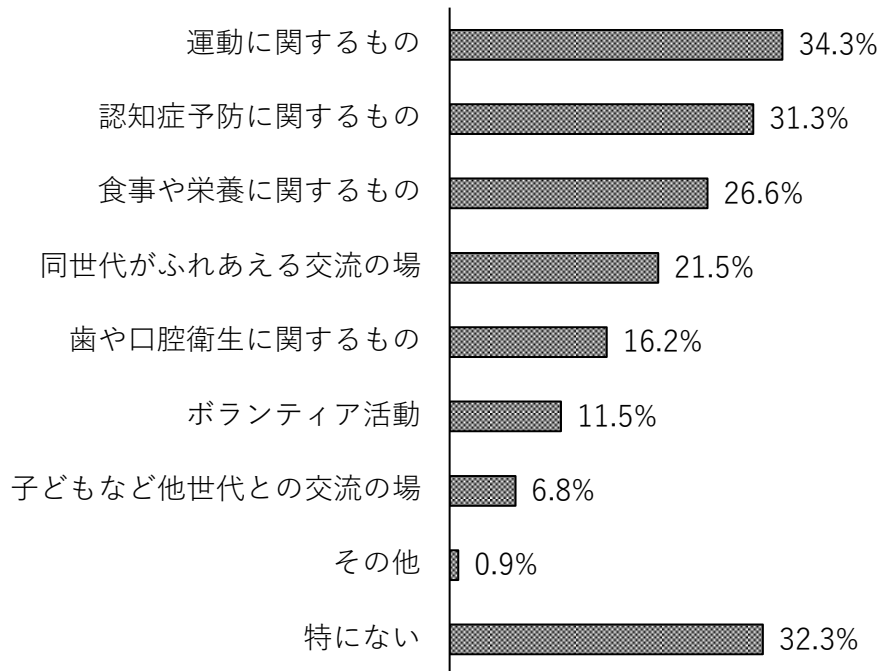
健康づくりや介護予防を心がけていない理由については、「めんどうだから」が36.2%と最も高く、次いで「時間がないから」(34.0%)、「きっかけがないから」(27.7%)と続いています。「経済的な理由」(14.9%)や「取り組み方がわからないから」(14.9%)、「一人では取り組みづらいから」(8.5%)、「取り組む場所がわからないから」(2.1%)など、『介護予防に取り組む意思があるのに取り組んでいないと思われる人』は合わせて40.4%あります。

第8期調査と比較すると、「めんどうだから」が16.2ポイント上昇する一方、「時間がないから」は18.5ポイント低下しています。また、『介護予防に取り組む意思があるのに取り組んでいないと思われる人』は12.1ポイント低下しています。



問14 日頃、健康づくりや介護予防のために、地域でどのような活動があれば参加したいですか。
(複数選択可) 【N=470】

健康づくりや介護予防のために、地域でどのような活動があれば参加したいかについては、「運動に関するもの」が34.3%で最も高く、次いで「認知症予防に関するもの」(31.3%)、「食事や栄養に関するもの」(26.6%)と続いています。一方、「特にない」は32.3%となっています。

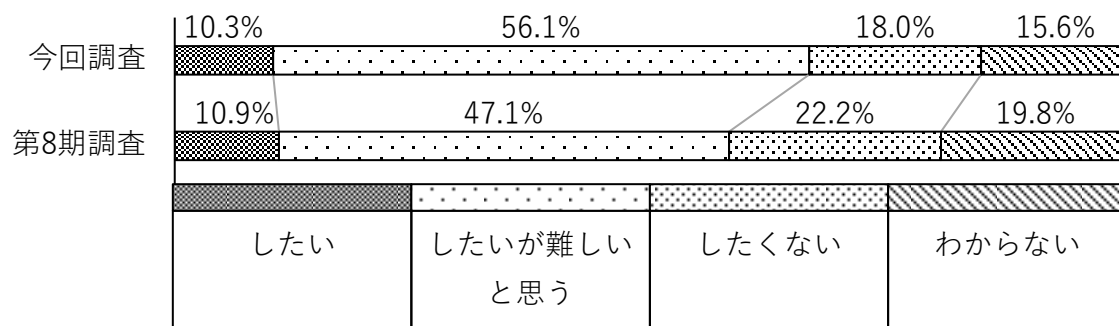


4 将来の介護や在宅医療について

問15 あなたは、今後、自身の身体の状態が悪くなり、介護が必要となったとき、自宅で最期まで療養したいと思いますか。（1つを選択）【N=467、531(第8期調査)】

今後、介護が必要になったときに自宅で最期まで療養したいと思うかどうかについては、「したいが難しいと思う」が56.1%と最も高く、「したくない」は18.0%、「したい」は10.3%となっています。

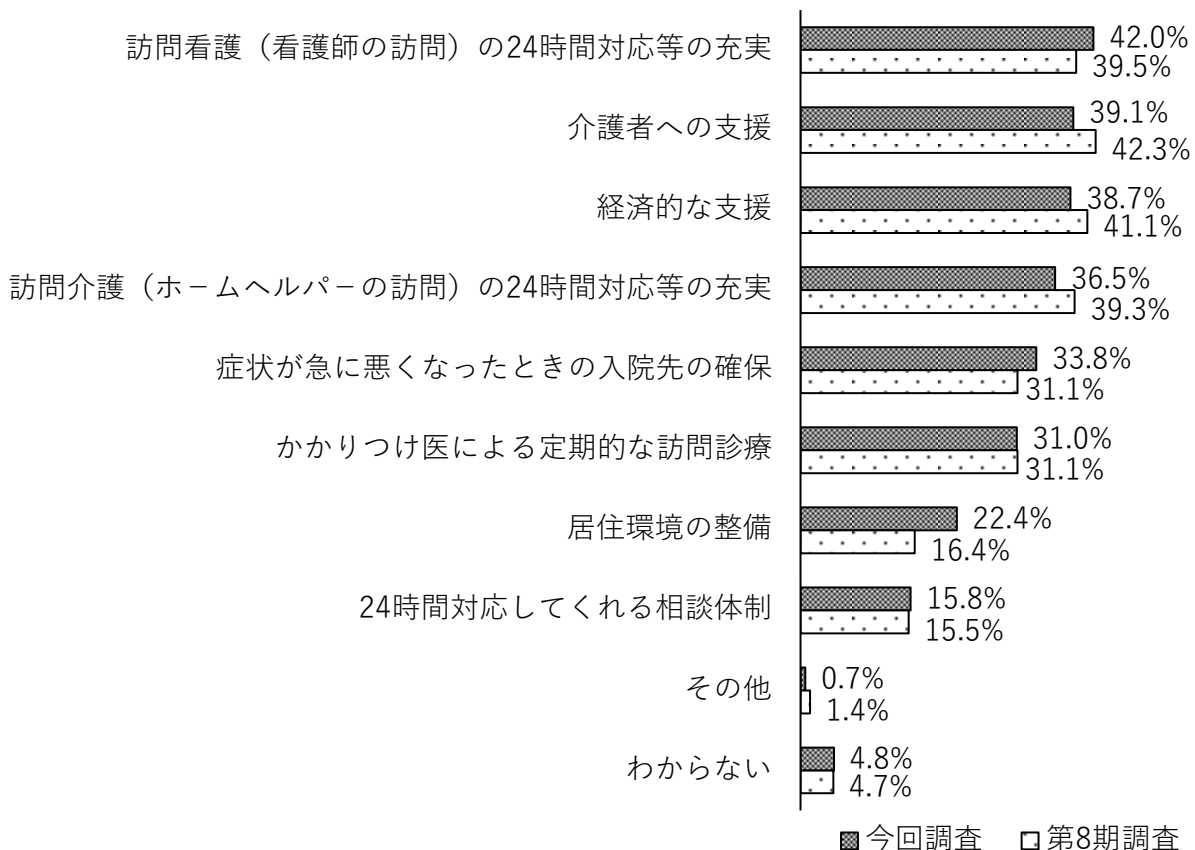
第8期調査と比較すると、「したいが難しいと思う」が9.0ポイント上昇しています。



問16 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択可)
【N=455、511(第8期調査)】

自宅で最期まで療養するために必要だと思うことについては、「訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実」が42.0%と最も高く、次いで「介護者への支援」(39.1%)、「経済的な支援」(38.7%)、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実」(36.5%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「居住環境の整備」が6.0ポイント、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が2.7ポイント、「訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実」が2.5ポイント、それぞれ上昇しています。

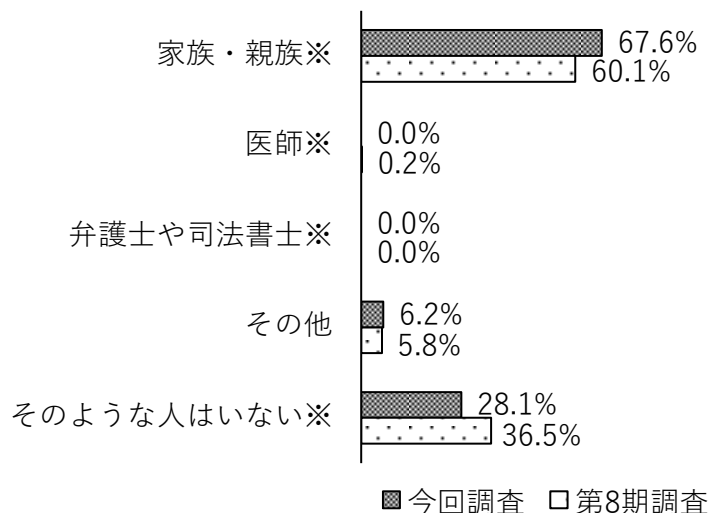


問17 あなたは、人生の終末期のことについて話している人がいますか。(複数選択可)

【N=466、531(第8期調査)】

人生の終末期のことについて話している相手については、「家族・親族」が67.6%と最も高くなっています。一方、「そのような人はいない」は28.1%となっています。

第8期調査と比較すると、「家族・親族(第8期調査では「家族」)」が7.5ポイント上昇し、「そのような人はいない」が8.4ポイント低下しています。



※第8期調査選択肢:「家族と話している」「医師と話している」「弁護士や司法書士と話している」「誰とも話していない」

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも「家族・親族」が最も高く、特に『60～64歳男性』では75.0%と高くなっています。一方、「そのような人はいない」は『55～59歳男性』で41.6%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。

		合計	家族・親族	医師	弁護士や司法書士	その他	そのような人はいない
男性	全体	213	62.9	-	-	4.2	33.3
	55～59歳	113	52.2	-	-	7.1	41.6
	60～64歳	100	75.0	-	-	1.0	24.0
女性	全体	246	71.1	-	-	7.3	24.4
	55～59歳	133	68.4	-	-	7.5	26.3
	60～64歳	113	74.3	-	-	7.1	22.1

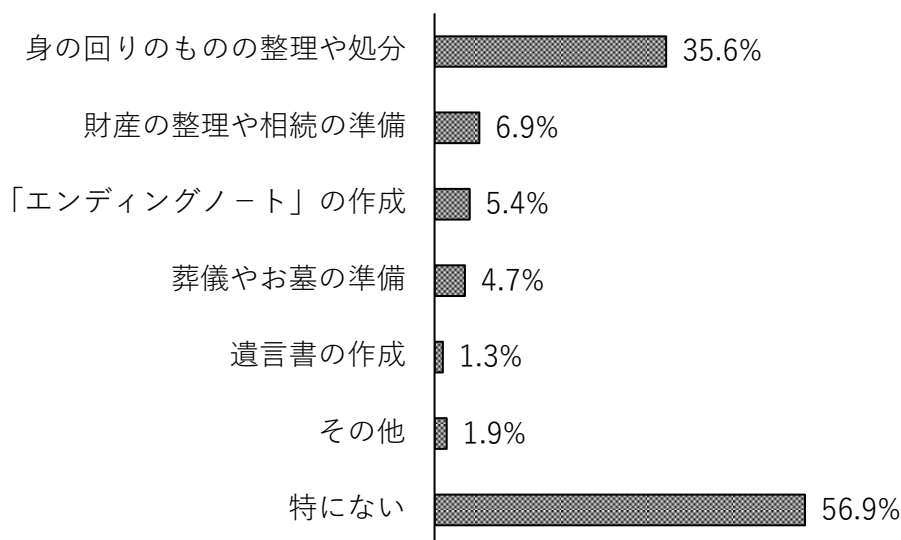
要介護者の有無別クロス

要介護者の有無別にみると、要介護者が『いる』人では「家族・親族」が75.4%と、『いない』人より9.2ポイント高くなっています。一方、要介護者が『いない』人では「そのような人はいない」が30.0%と、『いる』人より11.2ポイント高くなっています。

	合計	家族・親族	医師	弁護士や司法書士	その他	そのような人はいない
全体	459	67.5	-	-	5.9	28.3
いない	390	66.2	-	-	5.9	30.0
いる	69	75.4	-	-	5.8	18.8

問18 近年、人生を総括し、最期を迎えるに当たって様々な準備を行うことを意味する「終活」が注目されています。あなたは、何か「終活」として取り組んでいることはありますか。
(複数選択可)【N=466】

「終活」として取り組んでいることについては、「特にない」が56.9%と最も高くなっています。取り組んでいることとしては、「身の回りのものの整理や処分」が35.6%で最も高いほかはいずれも少数で、「財産の整理や相続の準備」(6.9%)、「エンディングノート」の作成」(5.4%)などとなっています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「身の回りのものの整理や処分」「エンディングノート」の作成」「葬儀やお墓の準備」は男性より女性の割合が高くなっています。一方、「財産の整理や相続の準備」は女性より男性の割合が高く、特に『60～64歳男性』では12.1%と高くなっています。

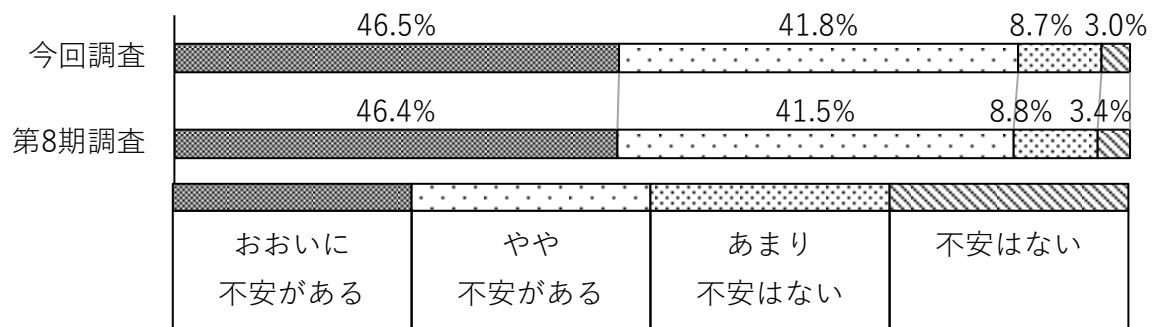
		合計	「エンディングノート」の作成	遺言書の作成	財産の整理や相続の準備	葬儀やお墓の準備	身の回りのものの整理や処分	その他	特にない
男性	全体	211	3.3	1.4	8.5	2.8	23.7	1.4	69.7
	55～59歳	112	2.7	0.9	5.4	2.7	17.9	-	78.6
	60～64歳	99	4.0	2.0	12.1	3.0	30.3	3.0	59.6
女性	全体	248	7.3	1.2	5.6	5.6	46.0	2.4	46.0
	55～59歳	134	7.5	0.7	5.2	3.0	45.5	3.0	50.0
	60～64歳	114	7.0	1.8	6.1	8.8	46.5	1.8	41.2

5 認知症について

問19 将来、ご自身やご家族が認知症になることに対して、不安がありますか。（1つを選択）
【N=469、535(第8期調査)】

認知症になることに対する不安については、「おおいに不安がある」が46.5%、「やや不安がある」が41.8%と、合わせて88.3%が『不安がある』と回答しています。一方、「あまり不安はない」は8.7%、「不安はない」は3.0%と、合わせて11.7%が『不安はない』と回答しています。

第8期調査と比較しても、ほとんど変化はみられません。

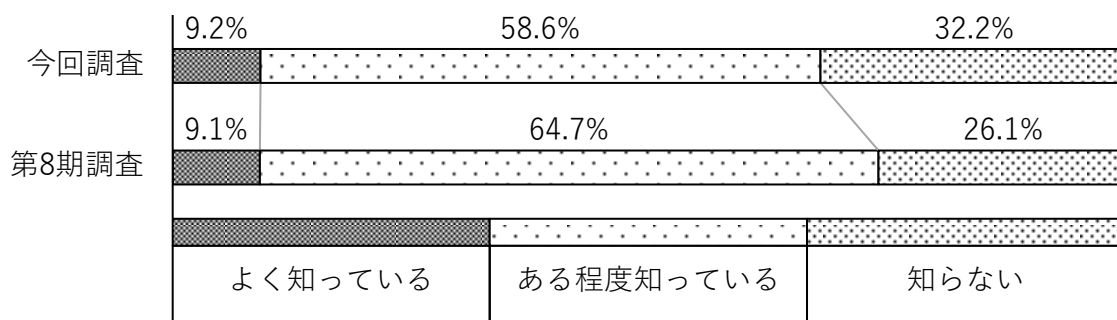


問20 認知症は、単なる物忘れとは異なり、アルツハイマー病や脳血管障害などの病気が主な原因となって引き起こされるため、予防したり、進行を遅らせたりすることができると言われています。あなたは認知症についてどの程度知っていますか。（1つを選択）

【N=469、536(第8期調査)】

認知症についての認知状況については、「ある程度知っている」が58.6%を占めており、「よく知っている」(9.2%)を合わせた『知っている』は67.8%となっています。一方、「知らない」は32.2%となっています。

第8期調査と比較すると、『知っている』は6.0ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

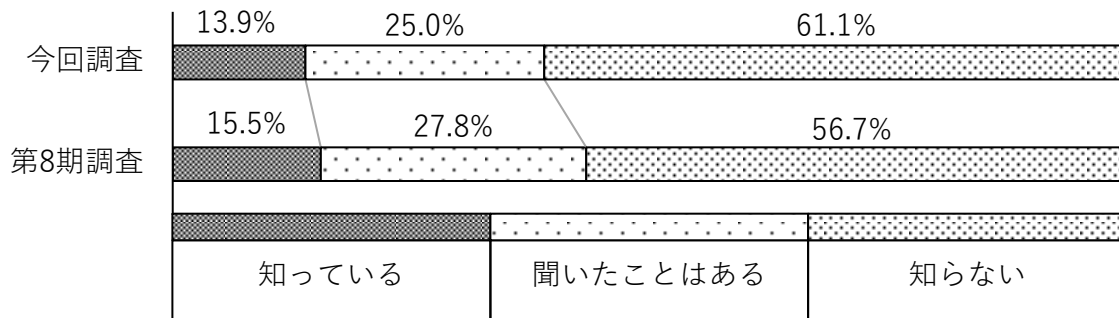
性・年齢別にみると、『知っている』は男性より女性の割合が高くなっています。特に、『60～64歳女性』では74.6%と高くなっています。

		合計	よく知っている	ある程度知っている	知らない
男性	全体	213	6.1	54.9	39.0
	55～59歳	113	7.1	54.9	38.1
	60～64歳	100	5.0	55.0	40.0
女性	全体	249	12.0	61.4	26.5
	55～59歳	135	11.1	61.5	27.4
	60～64歳	114	13.2	61.4	25.4

問21 「認知症サポーター」（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（1つを選択）【N=468、536(第8期調査)】

「認知症サポーター」の認知状況については、「知らない」が61.1%と過半数を占めており、「聞いたことはある」は25.0%、「知っている」は13.9%となっています。

第8期調査と比較すると、「知っている」が1.6ポイント、「聞いたことはある」が2.8ポイント低下しています。一方、「知らない」が4.4ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「知っている」は女性の割合が高くなっています。特に、『55～59歳女性』では22.4%と高くなっています。一方、「知らない」は『60～64歳男性』では74.0%と高くなっています。

		合計	知っている	聞いたことはある	知らない
男性	全体	213	6.6	21.6	71.8
	55～59歳	113	6.2	23.9	69.9
	60～64歳	100	7.0	19.0	74.0
女性	全体	248	20.2	28.2	51.6
	55～59歳	134	22.4	27.6	50.0
	60～64歳	114	17.5	28.9	53.5

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第4』では「知っている」が25.6%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。また、『鈴鹿第5』と『鈴鹿第8』では「聞いたことはある」が30%以上となっています。一方、『鈴鹿第1』『鈴鹿第2』『鈴鹿第6』『鈴鹿第7』『亀山第1』『亀山第2』では「知らない」が65%以上となっています。

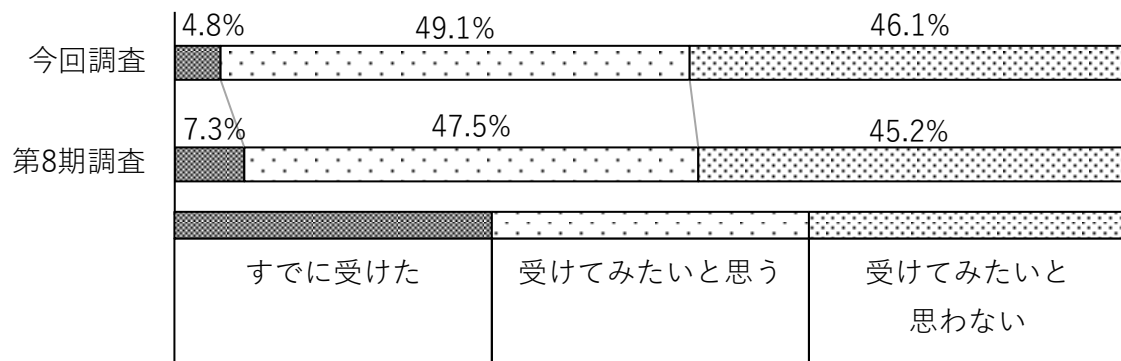
	合 計	知 っ て い る	あ 聞 い た こ と は	知 ら な い
全体	456	13.8	24.8	61.4
鈴鹿第1	48	10.4	22.9	66.7
鈴鹿第2	61	4.9	27.9	67.2
鈴鹿第3	42	16.7	23.8	59.5
鈴鹿第4	39	25.6	28.2	46.2
鈴鹿第5	40	15.0	37.5	47.5
鈴鹿第6	45	15.6	17.8	66.7
鈴鹿第7	56	12.5	19.6	67.9
鈴鹿第8	33	15.2	36.4	48.5
亀山第1	48	12.5	20.8	66.7
亀山第2	44	15.9	18.2	65.9

問22 「認知症サポーター」の養成講座を受けてみたいと思いますか。(1つを選択)

【N=462、531(第8期調査)】

「認知症サポーター」の養成講座の受講意向については、「受けてみたいと思う」が49.1%と最も高く、「すでに受けた」は4.8%となっています。一方、「受けてみたいと思わない」は46.1%となっています。

第8期調査と比較すると、「受けてみたいと思う」が1.6ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「受けてみたいと思う」は女性の割合が高く、過半数を占めています。また、「すでに受けた」も男性より女性の割合が高くなっています。一方、「受けてみたいと思わない」は男性の割合が高く、特に、『55～59歳男性』では58.6%と高くなっています。

		合計	すでに受けた	受けてみたいと思う	受けてみたいと思わない
男性	全体	210	1.9	44.8	53.3
	55～59歳	111	0.9	40.5	58.6
	60～64歳	99	3.0	49.5	47.5
女性	全体	245	6.9	52.7	40.4
	55～59歳	132	7.6	50.8	41.7
	60～64歳	113	6.2	54.9	38.9

日常生活圏域別クロス

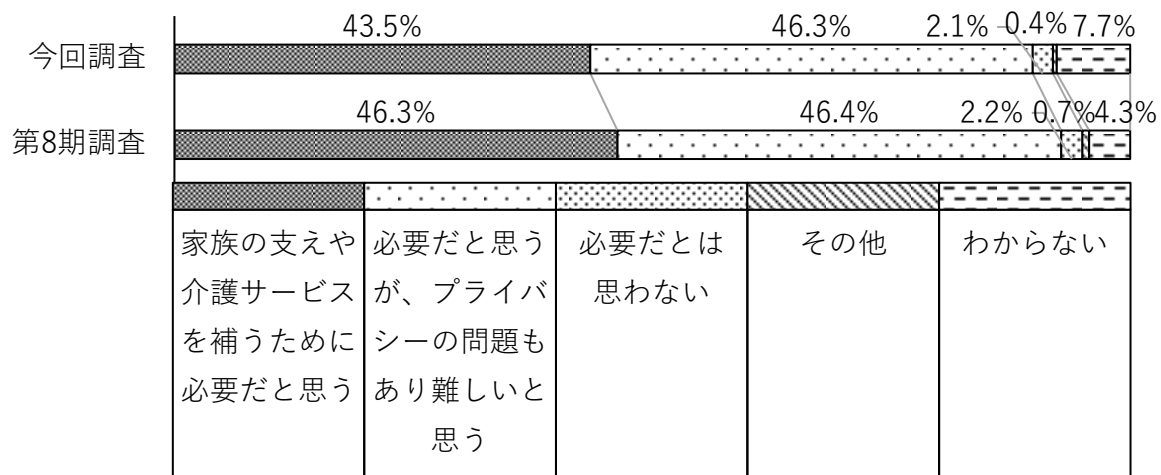
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第4』では「すでに受けた」が10.8%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。また、『鈴鹿第2』では「受けてみたいと思う」が65.0%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合 計	す で に 受 け た	思 受 う け て み た い と	思 受 わ け な い み た い と
全体	450	4.7	48.9	46.4
鈴鹿第1	48	2.1	37.5	60.4
鈴鹿第2	60	1.7	65.0	33.3
鈴鹿第3	41	4.9	53.7	41.5
鈴鹿第4	37	10.8	32.4	56.8
鈴鹿第5	39	7.7	41.0	51.3
鈴鹿第6	45	8.9	53.3	37.8
鈴鹿第7	56	3.6	48.2	48.2
鈴鹿第8	34	5.9	50.0	44.1
亀山第1	48	2.1	45.8	52.1
亀山第2	42	2.4	54.8	42.9

問23 認知症の高齢者が自宅で安心して生活するためには、介護保険サービスだけではなく地域住民の協力（見守りなど）は必要だと思いますか。（1つを選択）【N=469、534(第8期調査)】

認知症高齢者が自宅で安心して生活するために、介護保険サービスだけではなく地域住民の協力が必要だと思うかどうかについては、「必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う」が46.3%、「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が43.5%となっています。一方、「必要だとは思わない」は僅か2.1%となっています。

第8期調査と比較すると、「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が2.8ポイント低下する一方、「わからない」は3.4ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第2』では「必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う」が55.7%と、他の日常生活圏域に比べて特に高くなっています。一方、『鈴鹿第5』では「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が50.0%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

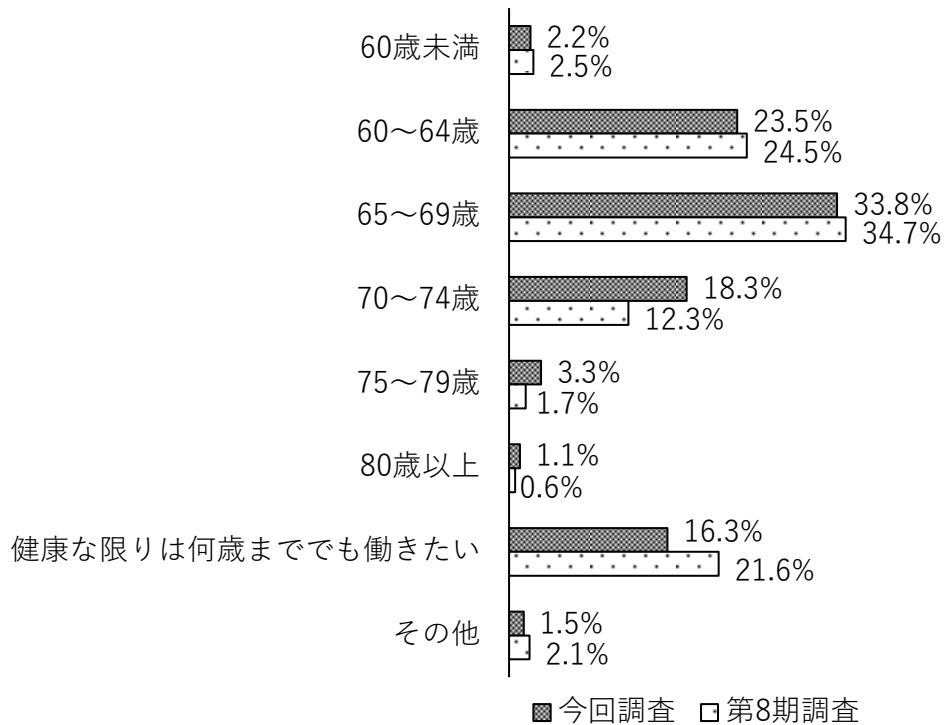
	合計	必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う	必要だとは思わない	必要だとは思わない	その他	わからない
全体	457	42.9	46.8	2.2	0.4	7.7
鈴鹿第1	48	39.6	52.1	2.1	-	6.3
鈴鹿第2	61	37.7	55.7	3.3	-	3.3
鈴鹿第3	42	45.2	45.2	4.8	2.4	2.4
鈴鹿第4	39	46.2	41.0	-	-	12.8
鈴鹿第5	40	50.0	37.5	2.5	2.5	7.5
鈴鹿第6	45	37.8	51.1	2.2	-	8.9
鈴鹿第7	56	42.9	46.4	-	-	10.7
鈴鹿第8	34	38.2	47.1	5.9	-	8.8
亀山第1	48	47.9	43.8	2.1	-	6.3
亀山第2	44	45.5	43.2	-	-	11.4

6 地域のたすけあいについて

問24 職業生活から引退（定年とは限りません）する年齢についてどのように考えていますか。
（1つを選択）【N=459、522(第8期調査)】

職業生活から引退する年齢については、「65～69歳」が33.8%と最も高く、次いで「60～64歳」(23.5%)、「70～74歳」(18.3%)と続いています。

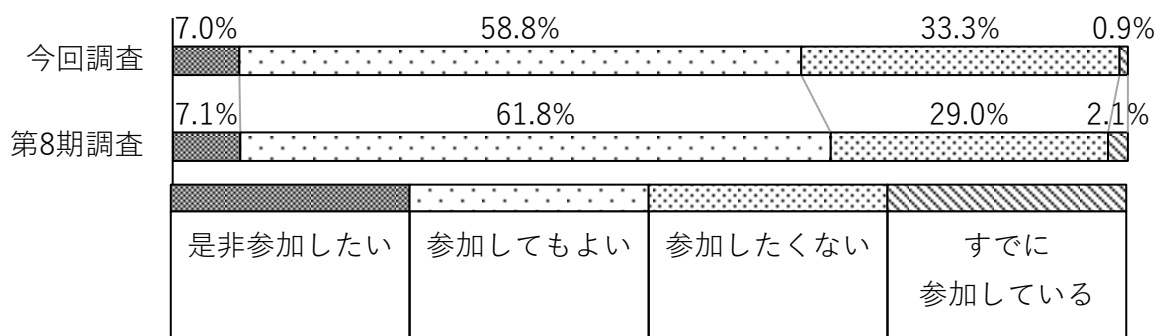
第8期調査と比較すると、「70～74歳」が6.0ポイント上昇する一方、「健康な限りは何歳までも働きたい」は5.3ポイント低下しています。



問25 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。（1つを選択）【N=454、524(第8期調査)】

健康づくり活動や趣味等のグループ活動による地域づくりに「是非参加したい」は7.0%、「参加してもよい」は58.8%と、合わせて65.8%の人に参加の意思があります。一方、「参加したくない」は33.3%となっています。また、「すでに参加している」は0.9%となっています。

第8期調査と比較すると、「参加してもよい」が3.0ポイント低下する一方、「参加したくない」が4.3ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、参加の意思がある人は男性より女性の割合が高くなっています。特に、『55～59歳女性』では71.1%と高くなっています。

		合計	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	すでに参加している
男性	全体	208	6.7	53.8	38.5	1.0
	55～59歳	110	7.3	48.2	42.7	1.8
	60～64歳	98	6.1	60.2	33.7	-
女性	全体	239	7.5	62.8	28.9	0.8
	55～59歳	128	9.4	61.7	28.9	-
	60～64歳	111	5.4	64.0	28.8	1.8

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、参加意思がある人は、『亀山第2』では74.4%、『鈴鹿第7』では72.8%、『鈴鹿第8』では70.6%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

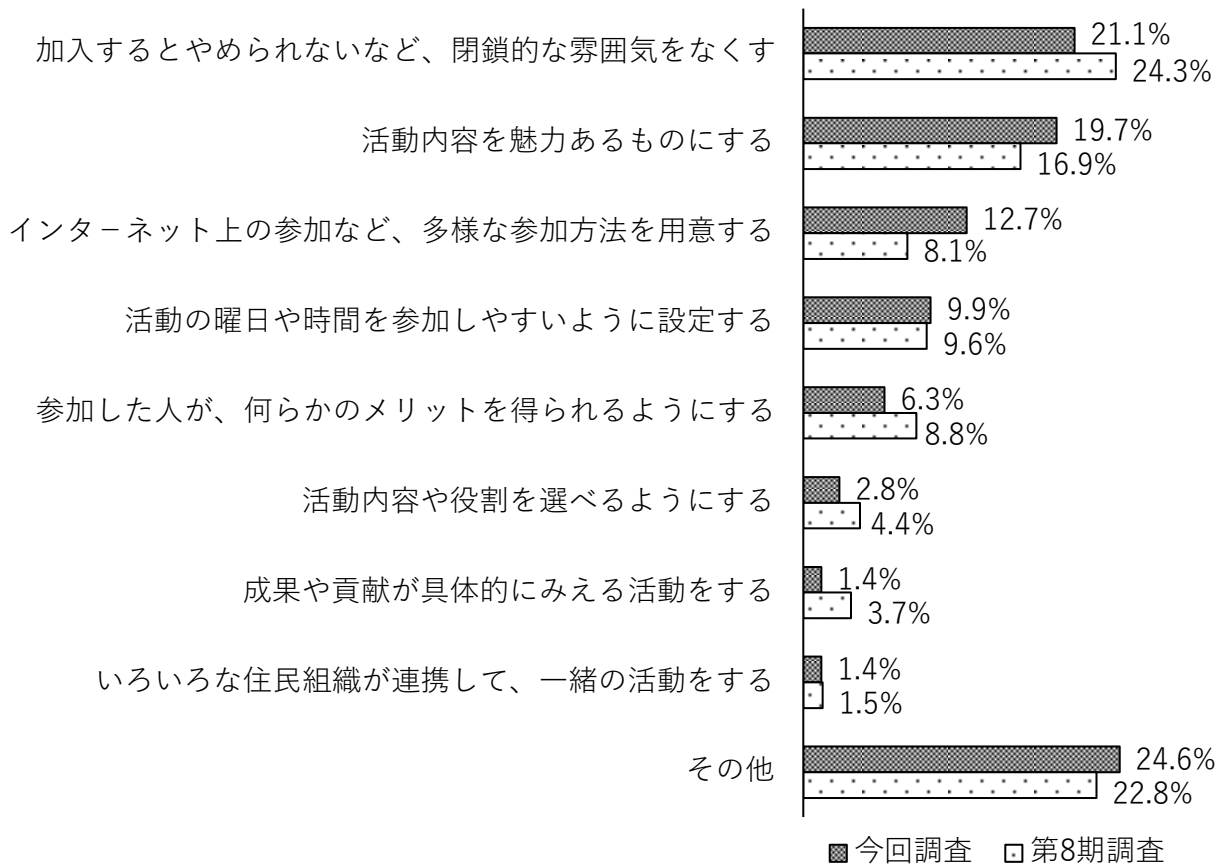
	合 計	是 非 参 加 し た い	参 加 し て も よ い	参 加 し た く な い	い す で に 参 加 し て
全体	442	7.2	58.4	33.5	0.9
鈴鹿第1	47	6.4	53.2	40.4	-
鈴鹿第2	58	5.2	63.8	31.0	-
鈴鹿第3	42	7.1	57.1	33.3	2.4
鈴鹿第4	38	13.2	47.4	39.5	-
鈴鹿第5	39	5.1	56.4	35.9	2.6
鈴鹿第6	42	9.5	42.9	47.6	-
鈴鹿第7	55	5.5	67.3	25.5	1.8
鈴鹿第8	34	11.8	58.8	29.4	-
亀山第1	44	9.1	59.1	31.8	-
亀山第2	43	2.3	72.1	23.3	2.3

問25で「参加したくない」と回答した方にお伺いします。

問25-② どうすれば参加したいと思いますか。(1つを選択)【N=142、136(第8期調査)】

どうすれば参加したいと思うかについては、「その他」が24.6%と最も高く、次いで「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気はなくす」(21.1%)、「活動内容を魅力あるものにする」(19.7%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「インターネット上の参加など、多様な参加方法を用意する」が4.6ポイント、「活動内容を魅力あるものにする」が2.8ポイント上昇する一方、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気はなくす」が3.2ポイント、「参加した人が、何らかのメリットを得られるようにする」が2.5ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『55～59歳男性』では「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気」をなくす」と「活動内容を魅力あるものにする」が同率(25.0%)で最も高くなっています。また、「インターネット上の参加など、多様な参加方法を用意する」も18.2%と高くなっています。女性ではどちらの年齢も「その他」が最も高くなっています。

		合計	活動の曜日より時間に設定を参加しやすい	インターネット上の参加方法を用意する	加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気	活動内容を魅力あるものにする	成果や貢献が具体的にみえる活動をする	活動内容や役割を選べるようにする	携えて、一緒に住民組織が連	いろいろな住民組織が連	参加した人が、何らかのメリットを得られるよう	その他
男性	全体	75	4.0	16.0	24.0	24.0	-	1.3	2.7	8.0	20.0	
	55～59歳	44	4.5	18.2	25.0	25.0	-	-	4.5	11.4	11.4	
	60～64歳	31	3.2	12.9	22.6	22.6	-	3.2	-	3.2	32.3	
女性	全体	65	16.9	9.2	18.5	15.4	1.5	4.6	-	4.6	29.2	
	55～59歳	35	17.1	8.6	20.0	20.0	-	8.6	-	-	25.7	
	60～64歳	30	16.7	10.0	16.7	10.0	3.3	-	-	10.0	33.3	

日常生活圏域別クロス

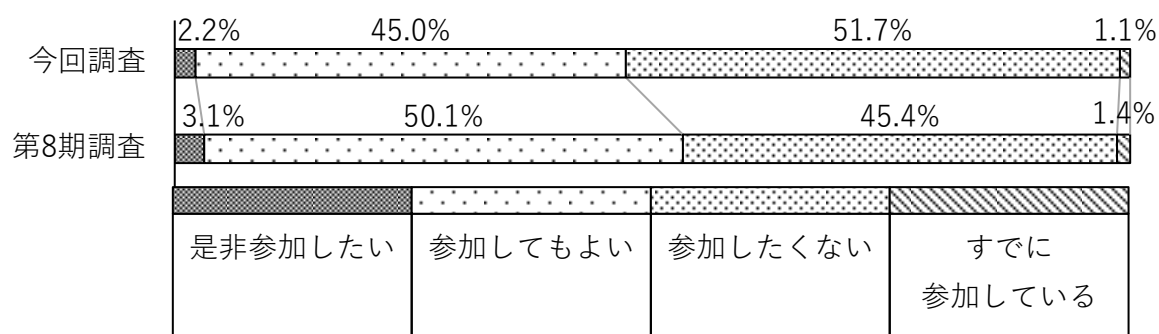
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第1』『鈴鹿第2』『鈴鹿第3』『鈴鹿第6』では「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす」が、『鈴鹿第5』と『鈴鹿第7』では「活動内容を魅力あるものにする」が、『亀山第2』では「活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する」が、『鈴鹿第8』では「その他」が、それぞれ最も高くなっています。『鈴鹿第4』と『亀山第1』では「活動内容を魅力あるものにする」と「その他」が同率となっています。

	合計	活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する	インターネット上での参加など、様々な方法を加用意する	加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす	活動内容を魅力あるものにする	成果や貢献が具体的にみえる活動をする	活動内容や役割を選ぶようにする	携わっている住民組織が連帯している	参加した人が、何らかのメリットを得られるようとする	その他
全体	139	10.1	12.9	21.6	19.4	0.7	2.9	1.4	6.5	24.5
鈴鹿第1	17	5.9	11.8	23.5	17.6	5.9	-	-	17.6	17.6
鈴鹿第2	16	6.3	12.5	37.5	-	-	12.5	-	-	31.3
鈴鹿第3	14	7.1	14.3	35.7	14.3	-	-	-	-	28.6
鈴鹿第4	15	13.3	-	-	33.3	-	6.7	6.7	6.7	33.3
鈴鹿第5	13	15.4	15.4	15.4	30.8	-	7.7	-	-	15.4
鈴鹿第6	19	5.3	26.3	36.8	10.5	-	-	-	5.3	15.8
鈴鹿第7	14	7.1	7.1	21.4	28.6	-	-	-	21.4	14.3
鈴鹿第8	9	-	-	22.2	22.2	-	-	-	-	55.6
亀山第1	13	15.4	15.4	7.7	30.8	-	-	-	-	30.8
亀山第2	9	33.3	22.2	-	11.1	-	-	11.1	11.1	11.1

問26 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1つを選択）【N=451、515(第8期調査)】

健康づくり活動や趣味等のグループ活動により地域づくりを進める際、企画・運営として「是非参加したい」は2.2%、「参加してもよい」は45.0%と、合わせて47.2%の人に参加の意思があります。一方、「参加したくない」は51.7%となっています。また、「すでに参加している」は1.1%となっています。

第8期調査と比較すると、「参加してもよい」が5.1ポイント低下する一方、「参加したくない」が6.3ポイント上昇し、参加の意思がある人は6.0ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、参加の意思がある人は女性より男性の割合が高くなっています。特に、『60～64歳男性』では54.1%と高くなっています。

		合計	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	すでに参加している
男性	全体	205	1.5	46.8	50.2	1.5
	55～59歳	109	1.8	41.3	55.0	1.8
	60～64歳	96	1.0	53.1	44.8	1.0
女性	全体	239	2.9	44.4	51.9	0.8
	55～59歳	128	3.1	46.1	50.8	-
	60～64歳	111	2.7	42.3	53.2	1.8

日常生活圏域別クロス

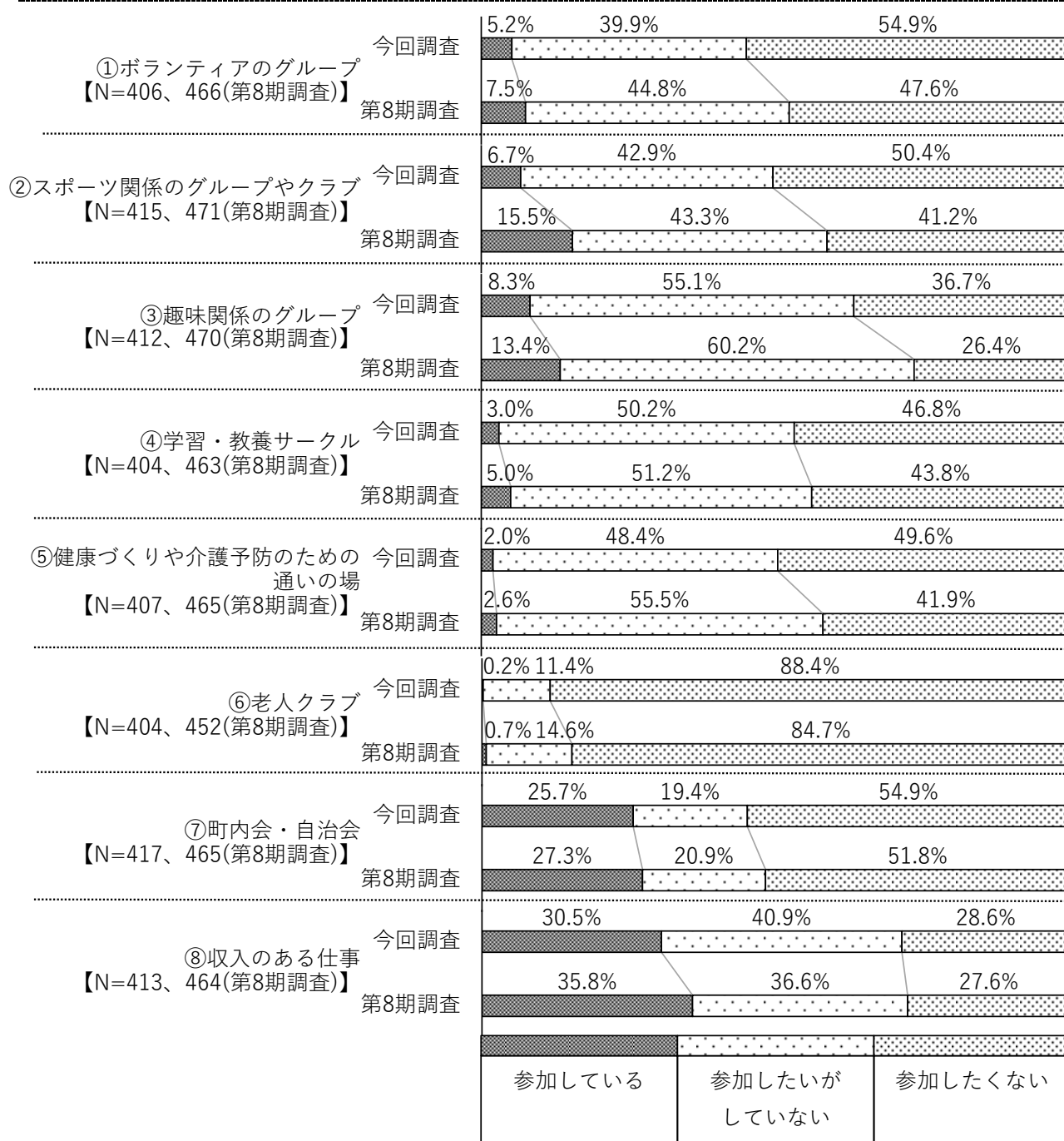
日常生活圏域別にみると、参加の意思がある人は『鈴鹿第7』では60.4%、『亀山第1』では59.0%、『亀山第2』では54.8%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。一方、「参加したくない」は『鈴鹿第1』と『鈴鹿第8』では60%を超えて高くなっています。

	合計	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	いすでに参加して
全体	439	2.3	45.1	51.5	1.1
鈴鹿第1	48	2.1	29.2	68.8	-
鈴鹿第2	60	1.7	45.0	53.3	-
鈴鹿第3	41	2.4	43.9	46.3	7.3
鈴鹿第4	39	5.1	43.6	51.3	-
鈴鹿第5	38	-	42.1	55.3	2.6
鈴鹿第6	40	-	42.5	57.5	-
鈴鹿第7	53	5.7	54.7	39.6	-
鈴鹿第8	34	-	38.2	61.8	-
亀山第1	44	4.5	54.5	40.9	-
亀山第2	42	-	54.8	42.9	2.4

問27 以下のような会・グループ等に参加していますか。また参加したいですか。※①～⑧それぞれに1つを選択

会・グループ活動等への参加については、「参加している」は「⑧収入のある仕事」が30.5%と最も高く、「⑦町内会・自治会」が25.7%と続いています。また、「参加したいがしていない」は、「③趣味関係のグループ」と「④学習・教養サークル」は50%を超えています。一方、「参加したくない」は「⑥老人クラブ」が88.4%と最も高くなっています。

第8期調査と比較すると、「②スポーツ関係のグループやクラブ」では「参加している」が8.8ポイント低下する一方、「参加したくない」は9.2ポイント上昇しています。また、「③趣味関係のグループ」でも「参加している」が5.1ポイント低下する一方、「参加したくない」は10.3ポイント上昇しています。その他、「①ボランティアのグループ」「⑤健康づくりや介護予防のための通いの場」でも「参加したくない」がそれぞれ7.3ポイント、7.7ポイント上昇しています。



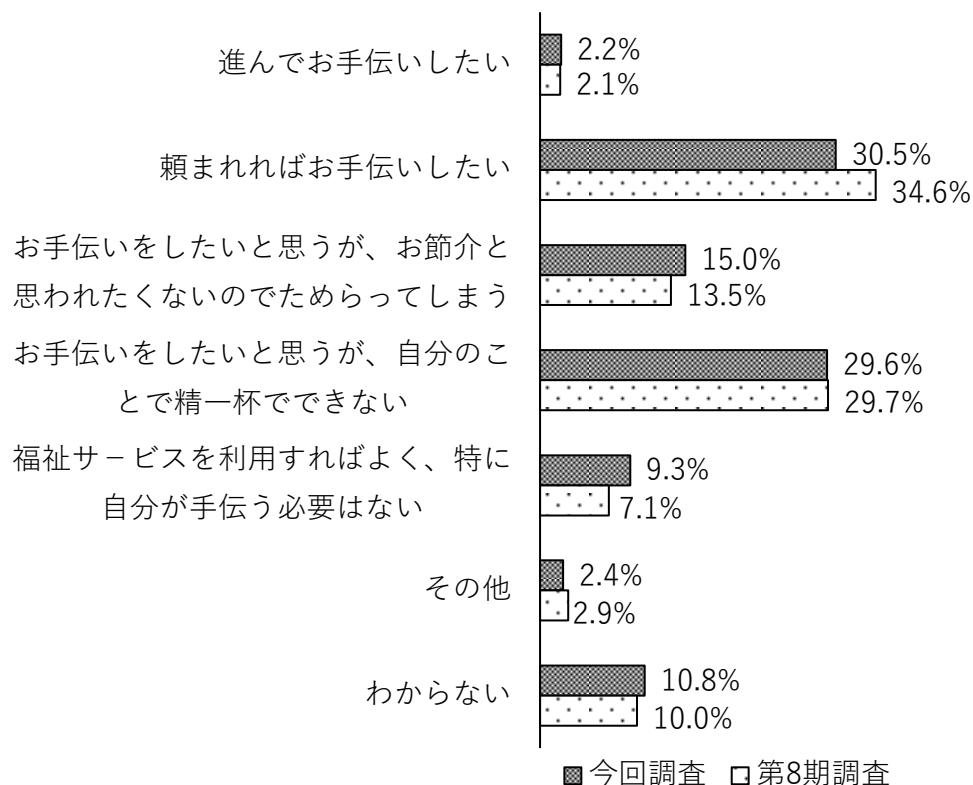
(上段:件数、下段:%)

	参 加 し て い る	て参 加 し た い が	い参 加 し た く な
①ボランティアのグループ	21	162	223
	5.2	39.9	54.9
②スポーツ関係のグループやクラブ	28	178	209
	6.7	42.9	50.4
③趣味関係のグループ	34	227	151
	8.3	55.1	36.7
④学習・教養サークル	12	203	189
	3.0	50.2	46.8
⑤健康づくりや介護予防のための通いの場	8	197	202
	2.0	48.4	49.6
⑥老人クラブ	1	46	357
	0.2	11.4	88.4
⑦町内会・自治会	107	81	229
	25.7	19.4	54.9
⑧収入のある仕事	126	169	118
	30.5	40.9	28.6

問28 ご近所で、高齢者や障がい者のみの世帯など、困っている世帯があったら、あなたはどんな対応をしますか。(1つを選択)【N=452、518(第8期調査)】

手助けが必要な世帯への対応については、「頼まれればお手伝いしたい」が30.5%と最も高くなっており、「進んでお手伝いしたい」(2.2%)、「お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう」(15.0%)を合わせると、『お手伝いしたい』は47.7%となっています。次いで、「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が29.6%で続いています。

第8期調査と比較すると、「福祉サービスを利用すればよく、特に自分が手伝う必要はない」が2.2ポイント上昇する一方、「頼まれればお手伝いしたい」は4.1ポイント低下し、『お手伝いしたい』は2.5ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『60～64歳男性』では「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が32.7%と最も高くなっていますが、その他の性・年齢ではいずれも「頼まれればお手伝いしたい」が最も高くなっています。『お手伝いしたい』は男性より女性の割合が高く、特に『55～59歳女性』では54.7%と高くなっています。

		合計	進んで お手伝い したい	頼まれ ればお 手伝い したい	いが、 のお で、お た、手 め、伝 介、い ら、を つ、し て、た わ、い し、れ れ、と ま、思 う、う く、な	で、お が、手 き、伝 な、い の、を こ、し と、た で、い 精、と 一、思 杯、う で	要は、 よく、 は、特 なく、 に、サ 自分 が、ビ 手、ス 伝、を う、利 れ、用 ば、す う、れ ば、必 ば	その他	わ か ら な い
男性	全体	210	1.0	26.7	14.8	30.5	10.5	2.4	14.3
	55～59歳	112	0.9	29.5	17.0	28.6	11.6	2.7	9.8
	60～64歳	98	1.0	23.5	12.2	32.7	9.2	2.0	19.4
女性	全体	236	3.0	34.3	15.7	28.4	8.5	2.5	7.6
	55～59歳	128	3.9	37.5	13.3	28.9	7.8	2.3	6.3
	60～64歳	108	1.9	30.6	18.5	27.8	9.3	2.8	9.3

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第1』『鈴鹿第3』『鈴鹿第5』『亀山第2』では「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が最も高くなっていますが、その他の日常生活圏域ではいずれも「頼まれればお手伝いしたい」が最も高くなっています。『お手伝いしたい』は『鈴鹿第8』では61.8%、『鈴鹿第6』では60.9%と高くなっています。

	合計	進んでお手伝いしたい	頼まれればお手伝いしたい	いが、おのでおた介をらつてわいれと思うな	が、お手伝いのことをしたいで精一杯で	要は、よく、福祉サ―ビスを利用すれば	その他	わからない
全体	441	2.0	31.1	14.7	29.3	9.5	2.5	10.9
鈴鹿第1	46	2.2	23.9	13.0	34.8	13.0	2.2	10.9
鈴鹿第2	58	1.7	37.9	12.1	31.0	6.9	1.7	8.6
鈴鹿第3	42	2.4	28.6	19.0	35.7	2.4	2.4	9.5
鈴鹿第4	38	2.6	31.6	10.5	15.8	15.8	7.9	15.8
鈴鹿第5	40	-	22.5	17.5	32.5	12.5	-	15.0
鈴鹿第6	41	2.4	31.7	26.8	26.8	2.4	2.4	7.3
鈴鹿第7	55	1.8	30.9	12.7	27.3	12.7	5.5	9.1
鈴鹿第8	34	-	47.1	14.7	20.6	5.9	-	11.8
亀山第1	45	4.4	28.9	13.3	24.4	13.3	-	15.6
亀山第2	42	2.4	28.6	9.5	40.5	9.5	2.4	7.1

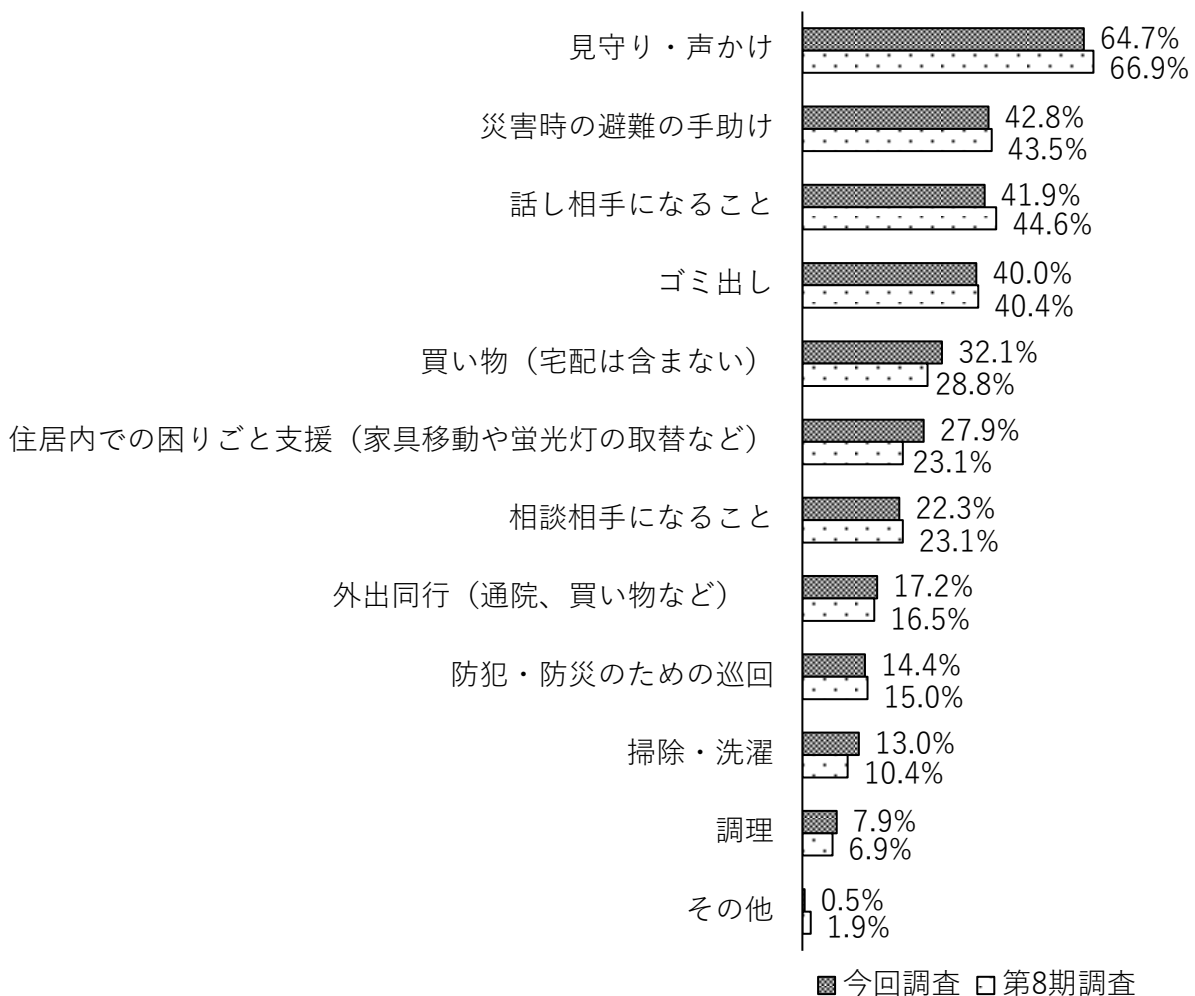
問28で「進んでお手伝いしたい」「頼まれればお手伝いしたい」「お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう」と回答した方にお伺いします。

問28-② 具体的にどのような手助けができますか。（複数選択可）

【N=215、260(第8期調査)】

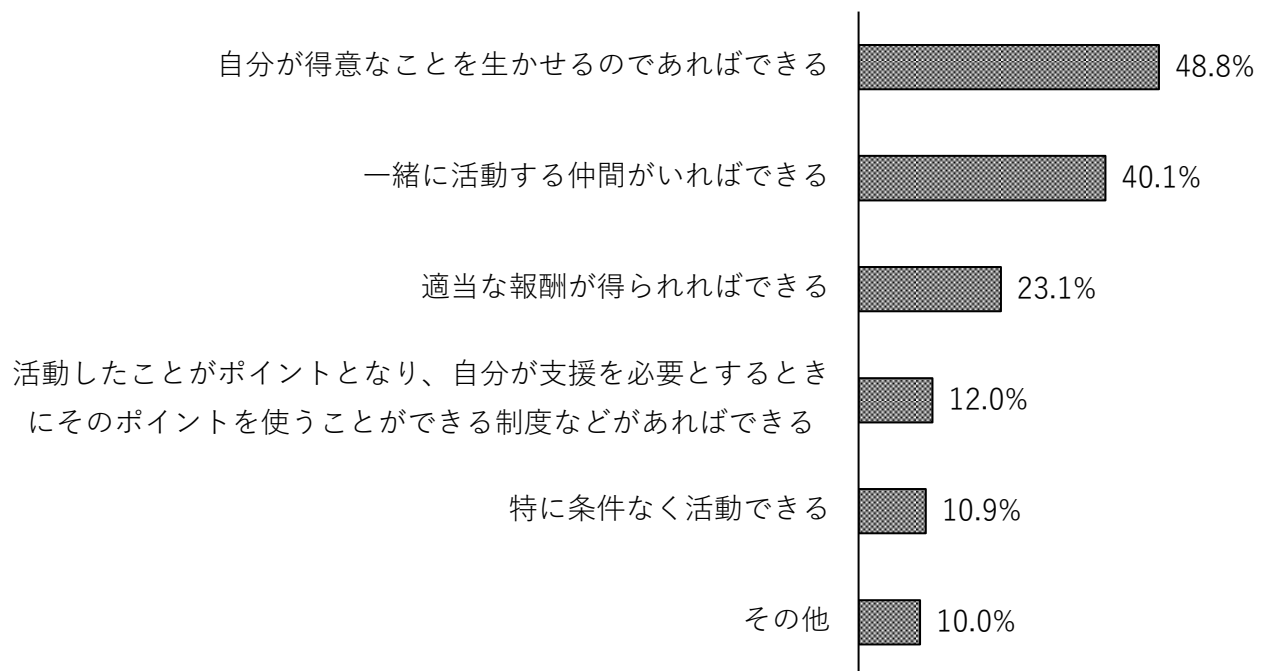
具体的にできると思う手助けについては、「見守り・声かけ」が64.7%と最も高く、次いで「災害時の避難の手助け」(42.8%)、「話し相手になること」(41.9%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「住居内での困りごと支援（家具移動や蛍光灯の取替など）」が4.8ポイント、「買い物（宅配は含まない）」が3.3ポイント上昇する一方、「話し相手になること」は2.7ポイント、「見守り・声かけ」は2.2ポイント低下しています。



問29 あなたは、どのような条件が整えば、地域で困っている方のお手伝いをすることができると
思いますか。（複数選択可）【N=441】

地域で困っている方のお手伝いをすることができる条件については、「自分が得意なことを生かせるのであればできる」が48.8%で最も高く、次いで「一緒に活動する仲間がいればできる」(40.1%)、「適当な報酬が得られればできる」(23.1%)と続いています。また、「特に条件なく活動できる」は10.9%あります。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、男性では「自分が得意なことを生かせるのであればできる」が、女性では「一緒に活動する仲間がいればできる」が、それぞれ最も高くなっています。また、『60～64歳男性』では「特に条件なく活動できる」が13.5%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。

		合計	特に条件なく活動できる	活動したことがポイントとなり、自分が支えを必要とするときにそのポイントを使える	適当な報酬が得られればできる	一緒に活動する仲間がいればできる	自分が得意なことを生かせるのであればできる	その他
男性	全体	204	11.8	10.8	30.9	32.4	54.9	9.8
	55～59歳	108	10.2	8.3	33.3	34.3	55.6	9.3
	60～64歳	96	13.5	13.5	28.1	30.2	54.2	10.4
女性	全体	231	10.4	13.4	16.0	46.8	43.3	10.0
	55～59歳	125	12.0	11.2	20.8	45.6	44.0	11.2
	60～64歳	106	8.5	16.0	10.4	48.1	42.5	8.5

日常生活圏域別クロス

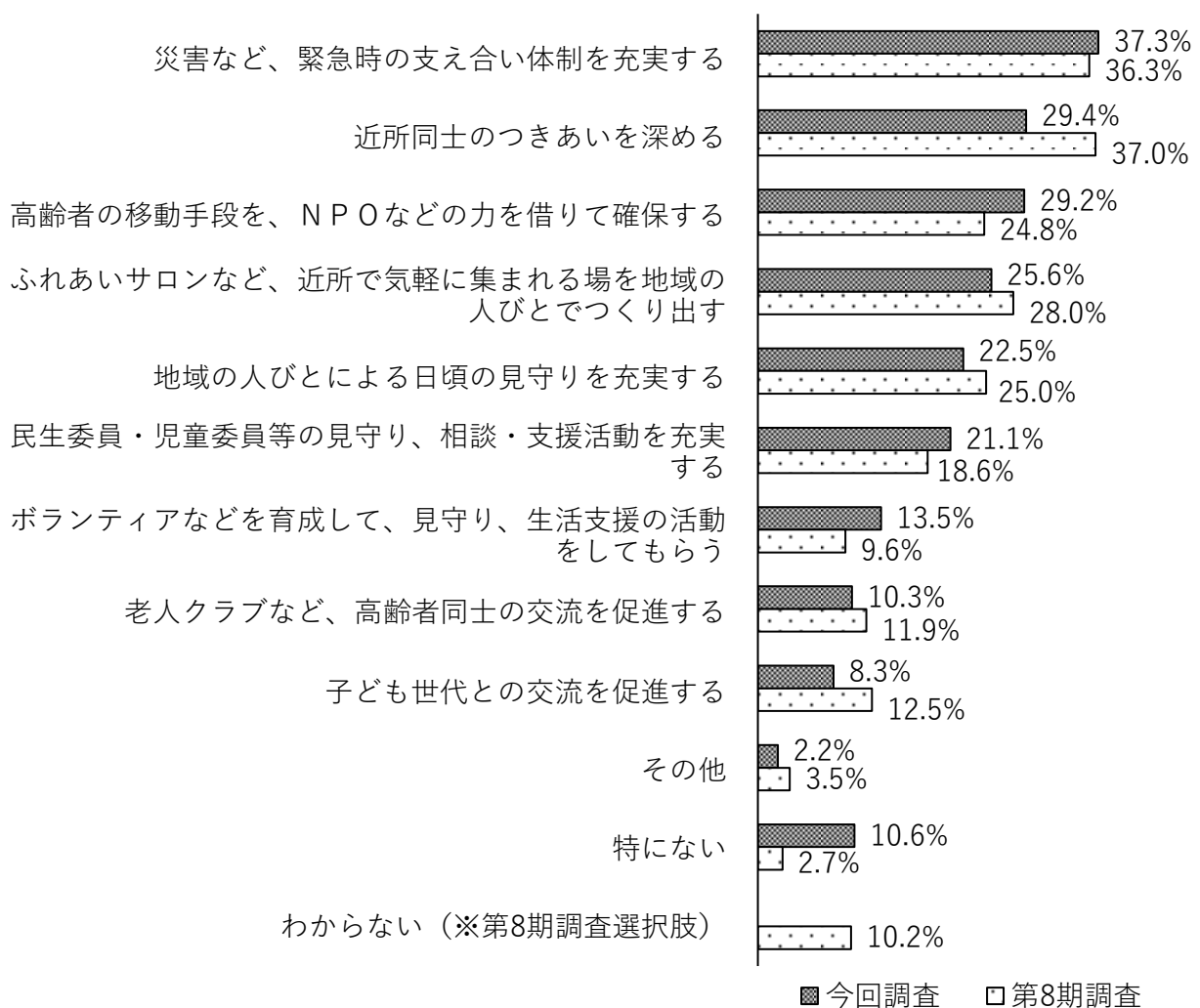
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第4』『鈴鹿第6』『鈴鹿第8』では「一緒に活動する仲間がいればできる」が、その他の日常生活圏域では「自分が得意なことを生かせるのであればできる」が、それぞれ最も高くなっています。また、「特に条件なく活動できる」は『鈴鹿第3』では21.1%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合 計	特に条件なく活動できる	活動したことがポイントとなり、自分が支えを必要とするときにそのポイントを使えることができる制度などがあればできる	適当な報酬が得られればできる	一緒に活動する仲間がいればできる	自分が得意なことを生かせるのであればできる	その他
全体	431	11.1	11.6	23.4	40.1	48.5	10.0
鈴鹿第1	44	13.6	6.8	27.3	36.4	59.1	4.5
鈴鹿第2	59	8.5	10.2	33.9	37.3	52.5	11.9
鈴鹿第3	38	21.1	13.2	18.4	31.6	39.5	7.9
鈴鹿第4	37	8.1	8.1	24.3	35.1	29.7	29.7
鈴鹿第5	36	16.7	11.1	27.8	36.1	41.7	8.3
鈴鹿第6	43	9.3	11.6	34.9	46.5	37.2	11.6
鈴鹿第7	55	9.1	12.7	21.8	36.4	63.6	3.6
鈴鹿第8	31	16.1	12.9	19.4	61.3	51.6	-
亀山第1	47	2.1	21.3	10.6	44.7	48.9	17.0
亀山第2	41	12.2	7.3	12.2	41.5	51.2	4.9

問30 今、住んでいる地域（地区、自治会など）が高齢者にとって暮らしやすい地域にするためには、あなたはどんなことが重要だと思いますか。（3つまで選択可）【N=445、521(第8期調査)】

高齢者にとって暮らしやすい地域にするために重要だと思うことについては、「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が37.3%と最も高く、次いで「近所同士のつきあいを深める」(29.4%)、「高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する」(29.2%)と続き、緊急時対策やコミュニティ組織、外出支援が重視されています。

第8期調査と比較すると、「高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する」が4.4ポイント、「ボランティアなどを育成して、見守り、生活支援の活動をしてもらう」が3.9ポイント上昇する一方、「近所同士のつきあいを深める」は7.6ポイント、「子ども世代との交流を促進する」は4.2ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『60～64歳男性』では「近所同士のつきあいを深める」が最も高くなっていますが、その他の性・年齢では「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が最も高くなっています。

		合計	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	気軽に集まれる場を、近所の人びとでつくり出す	地域の人のみによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する
男性	全体	204	9.8	6.9	30.9	24.0	24.5	21.1
	55～59歳	108	13.0	7.4	31.5	23.1	24.1	19.4
	60～64歳	96	6.3	6.3	30.2	25.0	25.0	22.9
女性	全体	235	7.2	13.6	28.1	26.8	20.4	20.4
	55～59歳	125	6.4	16.0	28.8	26.4	20.0	20.8
	60～64歳	110	8.2	10.9	27.3	27.3	20.9	20.0
			ボランティアなど、見守り、生活支援の活動をしてもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし	
男性	全体	8.8	29.4	35.8	2.0	13.2		
	55～59歳	11.1	29.6	44.4	0.9	10.2		
	60～64歳	6.3	29.2	26.0	3.1	16.7		
女性	全体	17.9	29.4	38.7	2.6	8.5		
	55～59歳	13.6	31.2	35.2	4.0	9.6		
	60～64歳	22.7	27.3	42.7	0.9	7.3		

日常生活圏域別クロス

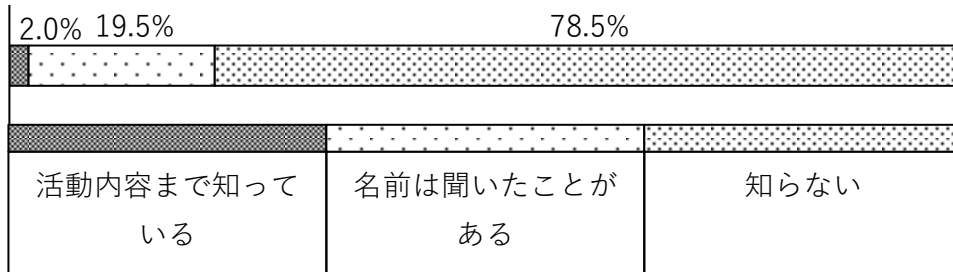
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第2』では「近所同士のつきあいを深める」が、『鈴鹿第4』では「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」が、『鈴鹿第5』では「高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する」が、それぞれ最も高くなっています。また、『鈴鹿第3』と『亀山第1』では「高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する」と「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が同率で高くなっています。その他の日常生活圏域では「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が最も高くなっています。

	合 計	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する
全体	435	8.3	10.6	29.4	25.7	22.5	20.9
鈴鹿第 1	46	4.3	13.0	28.3	17.4	23.9	8.7
鈴鹿第 2	58	10.3	12.1	34.5	32.8	20.7	27.6
鈴鹿第 3	39	5.1	2.6	28.2	23.1	15.4	20.5
鈴鹿第 4	37	2.7	8.1	24.3	32.4	27.0	21.6
鈴鹿第 5	35	2.9	8.6	22.9	22.9	31.4	17.1
鈴鹿第 6	44	13.6	15.9	22.7	20.5	25.0	15.9
鈴鹿第 7	55	7.3	14.5	32.7	25.5	21.8	21.8
鈴鹿第 8	34	5.9	8.8	32.4	35.3	26.5	14.7
亀山第 1	46	10.9	8.7	34.8	19.6	15.2	30.4
亀山第 2	41	17.1	9.8	29.3	29.3	22.0	26.8

	ボランティアなど、見守り、生活支援の活動をしてもらう	高齢者の移動手段を確保する、NPO	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特にない
全体	13.8	28.7	37.5	2.3	10.6
鈴鹿第 1	10.9	26.1	47.8	4.3	6.5
鈴鹿第 2	8.6	29.3	32.8	-	12.1
鈴鹿第 3	12.8	33.3	33.3	2.6	12.8
鈴鹿第 4	2.7	29.7	29.7	8.1	13.5
鈴鹿第 5	20.0	34.3	31.4	2.9	8.6
鈴鹿第 6	11.4	18.2	31.8	-	15.9
鈴鹿第 7	16.4	27.3	45.5	-	9.1
鈴鹿第 8	20.6	32.4	44.1	-	8.8
亀山第 1	8.7	37.0	37.0	2.2	13.0
亀山第 2	29.3	22.0	39.0	4.9	4.9

問31 あなたは、地域における支え合い活動などが進むよう支援する専門職である生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）のことをご存知ですか。（1つを選択）【N=456】

生活支援コーディネーターの認知状況については、「知らない」が78.5%と約8割を占めており、「名前は聞いたことはある」は19.5%、「活動内容まで知っている」は2.0%となっています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「知らない」が最も高く、特に『鈴鹿第1』『鈴鹿第5』『鈴鹿第7』『亀山第1』では80%を超えています。「活動内容まで知っている」は『鈴鹿第4』では13.5%、「名前は聞いたことがある」は『亀山第2』では26.8%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

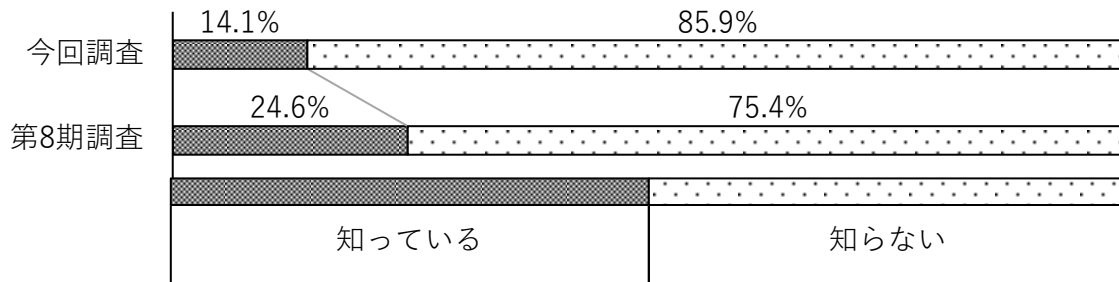
	合計	活動内容まで知っている	名前は聞いたことがある	知らない
全体	445	1.8	19.8	78.4
鈴鹿第1	46	-	10.9	89.1
鈴鹿第2	60	-	25.0	75.0
鈴鹿第3	41	-	22.0	78.0
鈴鹿第4	37	13.5	21.6	64.9
鈴鹿第5	38	-	15.8	84.2
鈴鹿第6	44	2.3	18.2	79.5
鈴鹿第7	56	1.8	17.9	80.4
鈴鹿第8	34	2.9	23.5	73.5
亀山第1	48	-	16.7	83.3
亀山第2	41	-	26.8	73.2

問32 あなたは、災害時要援護者支援活動を知っていますか。(1つを選択)

【N=455、529(第8期調査)】

災害時要援護者支援活動の認知状況については、「知っている」が14.1%、「知らない」が85.9%となっています。

第8期調査と比較すると、「知っている」が10.5ポイント低下しています。



日常生活圏域別クロス

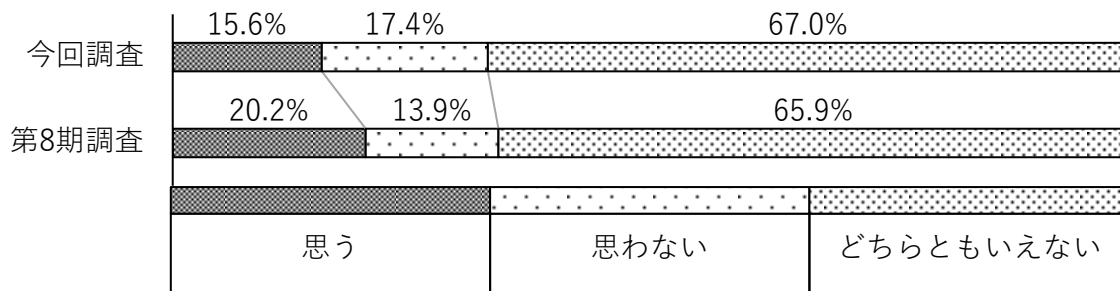
日常生活圏域別にみると、「知っている」は『鈴鹿第6』では22.7%、『鈴鹿第4』では21.6%と20%を超えており、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	知っている	知らない
全体	444	14.0	86.0
鈴鹿第1	46	8.7	91.3
鈴鹿第2	60	10.0	90.0
鈴鹿第3	41	19.5	80.5
鈴鹿第4	37	21.6	78.4
鈴鹿第5	37	10.8	89.2
鈴鹿第6	44	22.7	77.3
鈴鹿第7	56	17.9	82.1
鈴鹿第8	34	11.8	88.2
亀山第1	48	6.3	93.8
亀山第2	41	12.2	87.8

問33 あなたは、災害時要援護者支援活動において、「支援を必要とする人」の支援者になってもよいと思いますか。（1つを選択）【N=454、531(第8期調査)】

災害時要援護者支援活動において、「支援を必要とする人」の支援者になってもよいと思うかどうかについては、「どちらともいえない」が67.0%と最も高くなっています。「思う」は15.6%、「思わない」は17.4%となっています。

第8期調査と比較すると、「思わない」が3.5ポイント上昇する一方、「思う」は4.6ポイント低下しています。



日常生活圏域別クロス

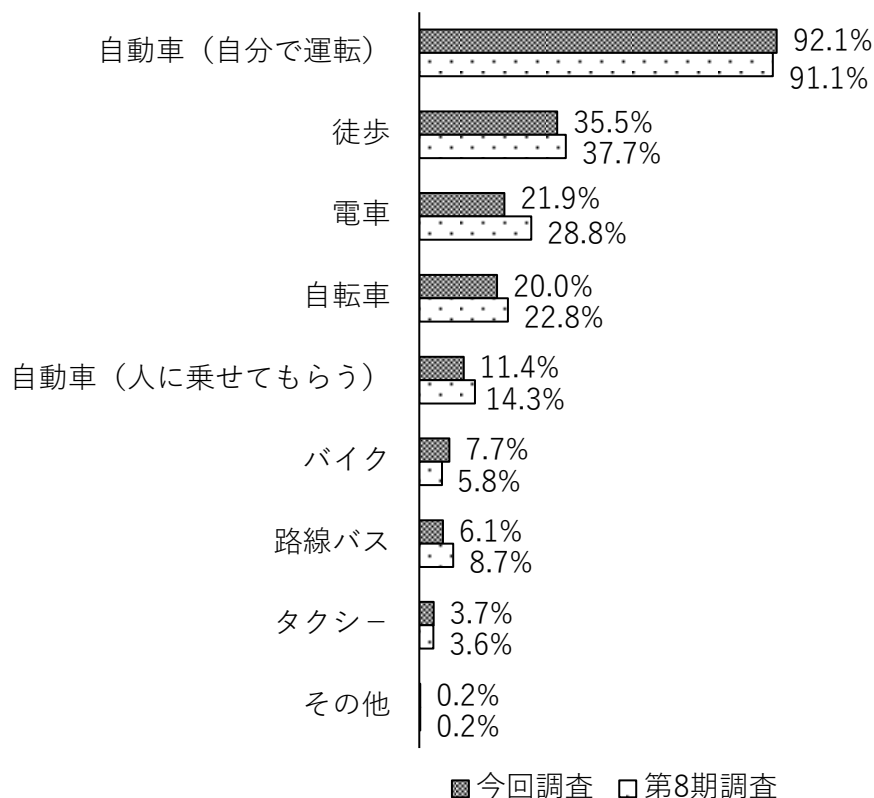
日常生活圏域別にみると、「思う」は『鈴鹿第4』『鈴鹿第5』『亀山第1』では20%以上と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	思う	思わない	いど えち なら い とも
全体	444	15.5	17.8	66.7
鈴鹿第1	46	15.2	19.6	65.2
鈴鹿第2	60	11.7	20.0	68.3
鈴鹿第3	41	12.2	14.6	73.2
鈴鹿第4	37	21.6	18.9	59.5
鈴鹿第5	38	23.7	15.8	60.5
鈴鹿第6	44	13.6	29.5	56.8
鈴鹿第7	56	8.9	14.3	76.8
鈴鹿第8	34	14.7	11.8	73.5
亀山第1	47	25.5	19.1	55.3
亀山第2	41	12.2	12.2	75.6

問34 外出する際の移動手段は何ですか。(複数選択可)【N=456、531(第8期調査)】

外出する際の移動手段については、「自動車（自分で運転）」が92.1%と突出して高く、次いで「徒歩」(35.5%)、「電車」(21.9%)、「自転車」(20.0%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「バイク」が1.9ポイント、「自動車（自分で運転）」が1.0ポイント上昇する一方、「電車」が6.9ポイント、「自動車（人に乗せてもらう）」が2.9ポイント、「自転車」が2.8ポイント、「路線バス」が2.6ポイント低下しています。



日常生活圏域別クロス

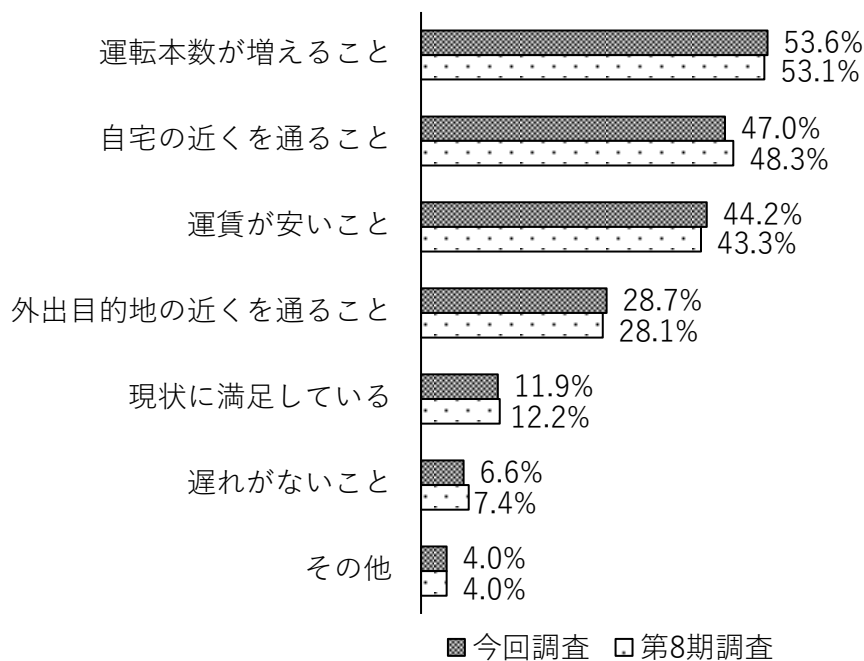
日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「自動車（自分で運転）」が最も高くなっています。一方、『鈴鹿第4』では「電車」が44.4%、「路線バス」が13.9%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合 計	徒 歩	自 転 車	バ イ ク	自 動 車 （ 自 分 で 運 転 ）	自 動 車 （ 人 に 乗 せ て も ら う ）	電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	そ の 他
全体	445	35.7	20.2	7.9	92.1	11.5	22.2	6.3	3.6	0.2
鈴鹿第1	46	21.7	17.4	2.2	89.1	8.7	10.9	2.2	4.3	2.2
鈴鹿第2	60	45.0	26.7	16.7	90.0	20.0	25.0	11.7	5.0	-
鈴鹿第3	41	31.7	17.1	7.3	95.1	4.9	24.4	2.4	4.9	-
鈴鹿第4	36	36.1	33.3	11.1	94.4	11.1	44.4	13.9	5.6	-
鈴鹿第5	39	43.6	15.4	2.6	94.9	12.8	15.4	-	-	-
鈴鹿第6	44	47.7	29.5	6.8	90.9	9.1	22.7	4.5	-	-
鈴鹿第7	56	44.6	25.0	5.4	82.1	16.1	33.9	12.5	5.4	-
鈴鹿第8	34	35.3	14.7	14.7	97.1	20.6	29.4	2.9	-	-
亀山第1	48	10.4	4.2	2.1	95.8	2.1	6.3	4.2	2.1	-
亀山第2	41	39.0	17.1	9.8	97.6	7.3	12.2	4.9	7.3	-

問35 あなたが公共交通に望むことは何ですか。(複数選択可) 【N=453、524(第8期調査)】

公共交通に望むことについては、「運転本数が増えること」が53.6%と最も高く、次いで「自宅の近くを通ること」(47.0%)、「運賃が安いこと」(44.2%)と続いています。

第8期調査と比較しても、ほとんど変化はみられません。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第3』と『鈴鹿第6』では「自宅の近くを通ること」が、『鈴鹿第4』では「運賃が安いこと」が最も高くなっています。『鈴鹿第5』では「運賃が安いこと」と「運転本数が増えること」が同率で高くなっています。その他の日常生活圏域では「運転本数が増えること」が最も高くなっています。一方、『鈴鹿第3』では「現状に満足している」が25.0%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。また、『亀山第1』では「外出目的地の近くを通ること」が37.5%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

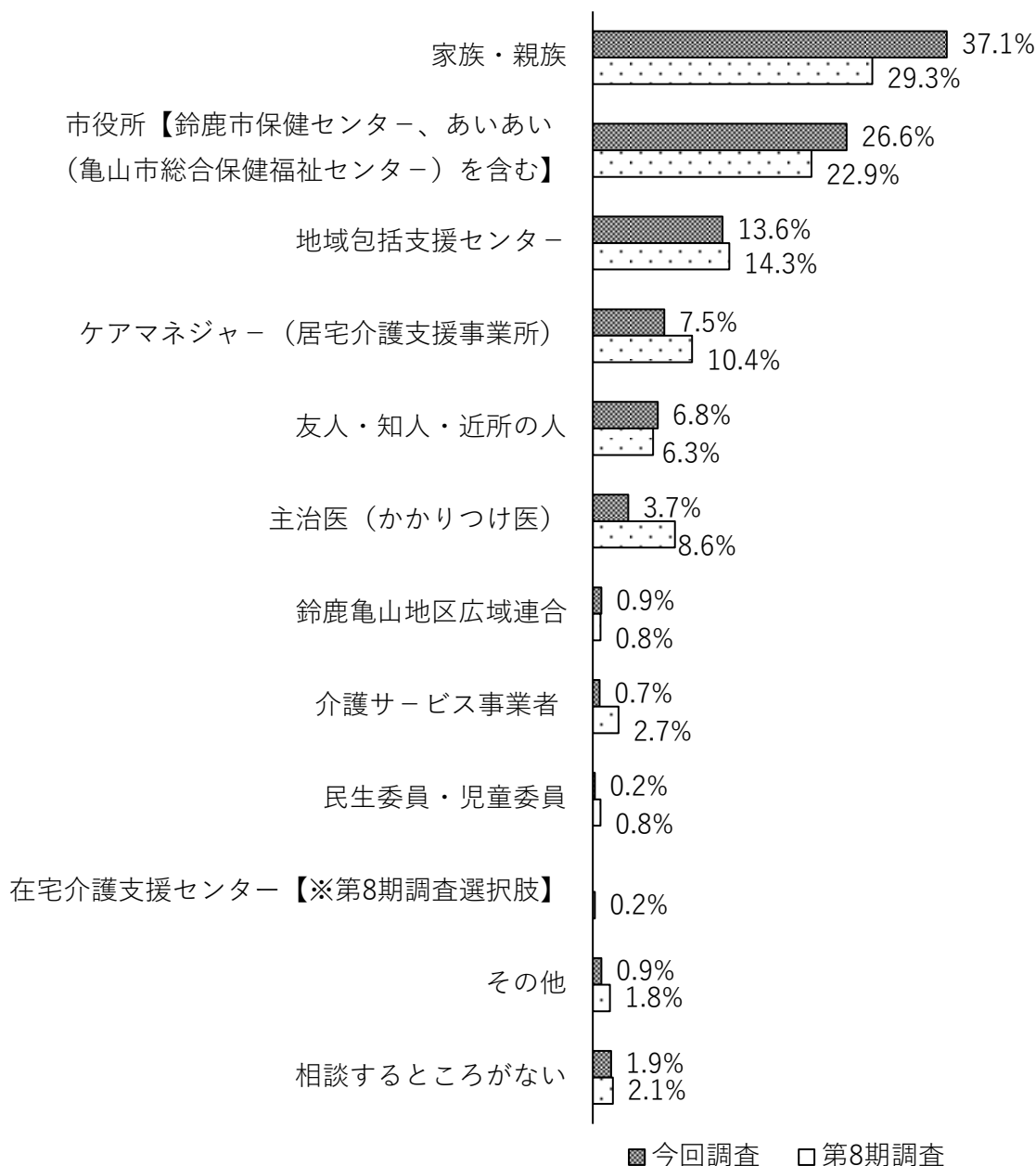
	合計	現状に満足している	自宅の近くを通ること	外出目的地の近くを通ること	運賃が安いこと	遅れないこと	運転本数が増えること	その他
全体	442	11.8	47.1	28.7	44.3	6.3	54.1	4.1
鈴鹿第1	46	4.3	54.3	26.1	37.0	2.2	58.7	6.5
鈴鹿第2	60	16.7	40.0	25.0	43.3	10.0	51.7	6.7
鈴鹿第3	40	25.0	50.0	22.5	45.0	7.5	35.0	5.0
鈴鹿第4	36	16.7	36.1	33.3	58.3	-	36.1	8.3
鈴鹿第5	38	13.2	42.1	21.1	44.7	5.3	44.7	-
鈴鹿第6	44	11.4	52.3	31.8	36.4	9.1	47.7	-
鈴鹿第7	55	18.2	49.1	30.9	45.5	5.5	52.7	1.8
鈴鹿第8	34	-	44.1	35.3	47.1	5.9	73.5	5.9
亀山第1	48	4.2	56.3	37.5	39.6	10.4	70.8	4.2
亀山第2	41	4.9	43.9	24.4	51.2	4.9	68.3	2.4

7 介護や保健福祉に関する相談について

問36 あなたは、介護や保健福祉サービスについて相談したいとき、まずどこに相談しますか。
(1つを選択)【N=428、512(第8期調査)】

介護や保健福祉サービスの相談先については、「家族・親族」が37.1%と最も高く、次いで「市役所」(26.6%)、「地域包括支援センター」(13.6%)と続いています。一方、「相談するところがない」は1.9%となっています。

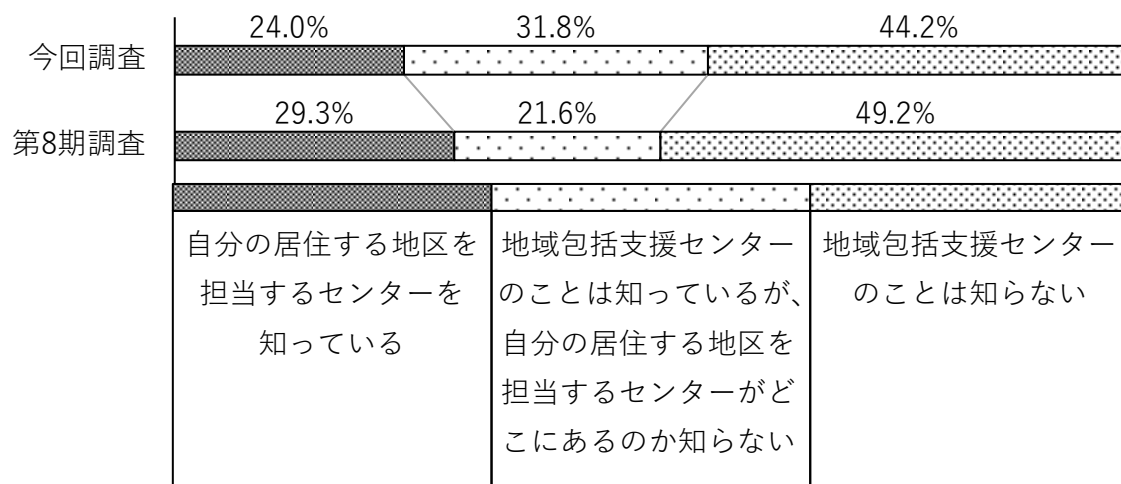
第8期調査と比較すると、「家族・親族」は7.8ポイント、「市役所」は3.7ポイント上昇する一方、「主治医(かかりつけ医)」は4.9ポイント、「ケアマネジャー」は2.9ポイント、「介護サービス事業者」は2.0ポイント低下しています。



問37 鈴鹿亀山地区には、介護サービスなどに関する身近な相談の場として、鈴鹿市内に8か所、亀山市内に2か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。（1つを選択）【N=450、533(第8期調査)】

地域包括支援センターの認知状況については、「地域包括支援センターのことは知らない」が44.2%と最も高く、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は24.0%、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」は31.8%となっています。

第8期調査と比較すると、「地域包括支援センターのことは知らない」が5.0ポイント低下していますが、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」が10.2ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は男性より女性の割合が高くなっており、特に『60～64歳女性』では31.8%と高くなっています。一方、「地域包括支援センターのことは知らない」は男性の割合が高く、特に『55～59歳男性』では60.7%と高くなっています。

		合計	自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない	地域包括支援センターのことは知らない
男性	全体	205	17.1	23.9	59.0
	55～59歳	107	10.3	29.0	60.7
	60～64歳	98	24.5	18.4	57.1
女性	全体	238	30.3	37.8	31.9
	55～59歳	128	28.9	41.4	29.7
	60～64歳	110	31.8	33.6	34.5

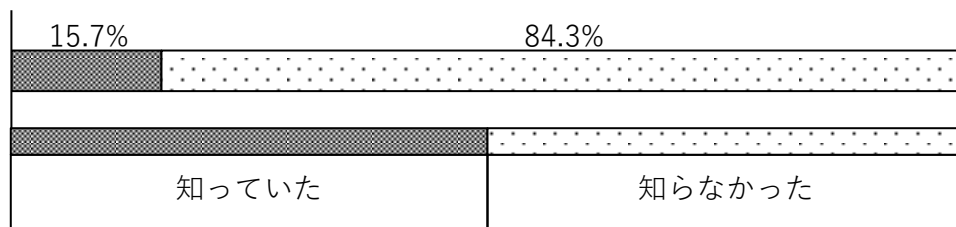
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第 4 』では「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が36.1%、『鈴鹿第 3 』では「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」が40.0%と、それぞれ最も高くなっています。一方、「地域包括支援センターのことは知らない」は『鈴鹿第 2 』『鈴鹿第 5 』『鈴鹿第 7 』『鈴鹿第 8 』『亀山第 2 』では50%以上となっています。

	合 計	自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない	地域包括支援センターのことは知らない
全体	439	24.4	31.4	44.2
鈴鹿第 1	46	32.6	28.3	39.1
鈴鹿第 2	58	24.1	25.9	50.0
鈴鹿第 3	40	35.0	40.0	25.0
鈴鹿第 4	36	36.1	30.6	33.3
鈴鹿第 5	38	15.8	31.6	52.6
鈴鹿第 6	43	23.3	27.9	48.8
鈴鹿第 7	56	19.6	28.6	51.8
鈴鹿第 8	34	8.8	38.2	52.9
亀山第 1	47	31.9	34.0	34.0
亀山第 2	41	14.6	34.1	51.2

問38 地域包括支援センターは、令和3年4月から箇所数が増え、担当区域が狭くなり、きめ細やかな対応が可能になりました。このことはご存知でしたか。（1つを選択）【N=470】

地域包括支援センターの箇所数が増え、担当区域が狭くなり、きめ細やかな対応が可能になったことを「知っていた」は15.7%となっており、「知らなかった」が84.3%となっています。



日常生活圏域別クロス

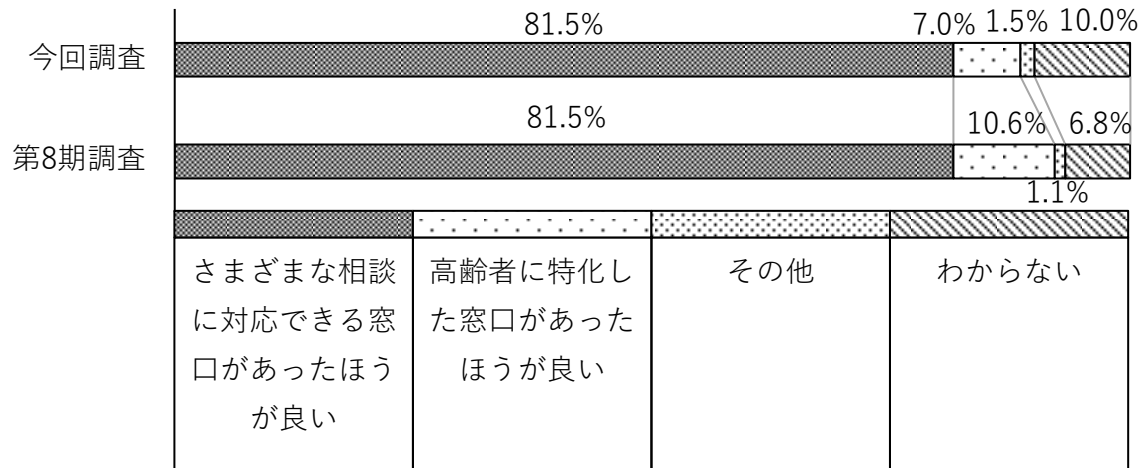
日常生活圏域別にみると、「知っていた」は『鈴鹿第1』『鈴鹿第3』『鈴鹿第4』『亀山第1』では20%以上となっています。一方、「知らなかった」は『鈴鹿第2』と『鈴鹿第8』では90%を超えています。

	合計	知っていた	知らなかった
全体	458	15.9	84.1
鈴鹿第1	48	20.8	79.2
鈴鹿第2	62	6.5	93.5
鈴鹿第3	41	22.0	78.0
鈴鹿第4	39	25.6	74.4
鈴鹿第5	41	12.2	87.8
鈴鹿第6	44	13.6	86.4
鈴鹿第7	57	14.0	86.0
鈴鹿第8	35	8.6	91.4
亀山第1	47	23.4	76.6
亀山第2	44	15.9	84.1

問39 あなたは、高齢者だけでなく、障がい、子育て、生活困窮などさまざまな相談に対応する窓口についてどのように思いますか。(1つを選択)【N=470、530(第8期調査)】

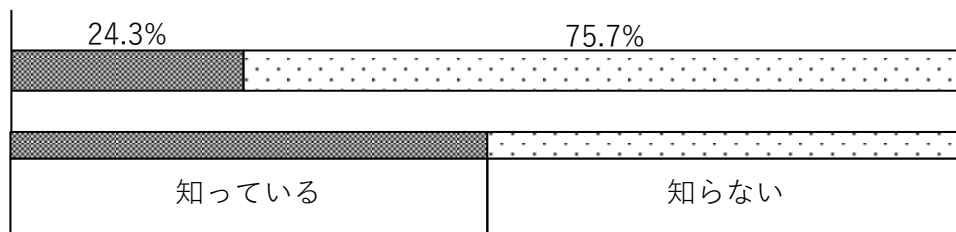
さまざまな相談に対応する窓口については、「さまざまな相談に対応できる窓口があったほうが良い」が81.5%を占めています。「高齢者に特化した窓口があったほうが良い」は7.0%、「わからない」は10.0%となっています。

第8期調査と比較すると、「わからない」が3.2ポイント上昇する一方、「高齢者に特化した窓口があったほうが良い」が3.6ポイント低下しています。



問40 「8050問題」や「ヤングケアラー」などが社会問題となっています。あなたは、こうした複
 合化した課題を持つ家庭等を身近にご存知ですか。（1つを選択）【N=470】

複合化した課題を持つ家庭等を身近に知っているかどうかについては、「知っている」が24.3%、
 「知らない」が75.7%となっています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「知っている」は『鈴鹿第7』では35.1%、『亀山第2』では34.1%と、
 30%を超えています。

	合 計	知 っ て い る	知 ら な い
全体	458	24.7	75.3
鈴鹿第1	48	16.7	83.3
鈴鹿第2	62	16.1	83.9
鈴鹿第3	41	26.8	73.2
鈴鹿第4	39	25.6	74.4
鈴鹿第5	41	22.0	78.0
鈴鹿第6	44	29.5	70.5
鈴鹿第7	57	35.1	64.9
鈴鹿第8	35	14.3	85.7
亀山第1	47	25.5	74.5
亀山第2	44	34.1	65.9

問40で「知っている」と回答した方にお伺いします。

問40－② そのような家庭等はどのような支援を求めていると思いますか。（複数選択可）
【N=114】

そのような家庭等がどのような支援を求めていると思うかについては、「日常生活の支援」が71.1%で最も高く、次いで「経済的な支援」(68.4%)、「専門職との継続的な関わり」(39.5%)、「就労先の確保」(35.1%)と続いています。

